

2

第二章

特定のテーマに重点を置いた観光振興

旅行目的・形態が多様化する中、旅行者を迎える地域においては新たな視点での観光地域づくりが求められており、食を活用したガストロノミーツーリズム、ロケ地を活用したロケツーリズム等、創意工夫に富んだ新たな観光のスタイルが次々に誕生している。本章では特定のテーマに重点を置いて国内外からのさらなる観光誘客に取り組む事例を紹介する。

CONTENTS

2-1 エコツーリズム

- 2-1-1 アドベンチャートラベル市場に対する事業創出 P48
- 2-1-2 暮らしを旅する「SATOYAMA EXPERIENCE」 P50
- 2-1-3 コウノトリを中心とした地域経済の活性化
～コウノトリツーリズム～ P52
- 2-1-4 エネルギーと資源の循環を巡る「バイオマスツアーさが」 P54
- 2-1-5 甌島の資源の保護と活用による観光振興を主軸とした地域振興
～エコツーリズムからジオツーリズムへ～ P56



2-2 ガストロノミーツーリズム

- 2-2-1 新潟ガストロノミーツーリズムの扉を開くレストランバス P58



2-3 酒蔵ツーリズム

- 2-3-1 酒蔵を活用した地域全体の観光振興策 P60

2-4 ロケツーリズム

- 2-4-1 ロケツーリズムの取組 P62



2-5 サイクルツーリズム

- 2-5-1 サイクルツーリズムで地域活性化を目指す「ビワイチ」 P64
- 2-5-2 サイクリストの聖地『瀬戸内しまなみ海道』を核とした
サイクルツーリズムの推進 P66



2-6 フットパスツーリズム

- 2-6-1 着地型観光商品 “美里式フットパスツーリズムコース”の
開発と販路開拓 P68

2-7 産業観光

- 2-7-1 日本一元気な半島「知多半島」広域観光推進プロジェクト P70
- 2-7-2 工場夜景を生かした観光地域づくり P72



2-8 インフラツーリズム

- 2-8-1 「湯田ダム(錦秋湖)」を活用した地域活性化 P74
- 2-8-2 秘境八十里越体感バス
～普段入れない工事現場を観光資源に～ P76
- 2-8-3 マンホールカード 史跡足利学校の魅力を高めるマンホール P78
- 2-8-4 建設中のダム現場見学を活用した地域振興。
その名も“やんばツアーズ” P80
- 2-8-5 秩父4ダム探検隊が往く!ツアー P82
- 2-8-6 ドボクアート砂防堰堤めぐりバスツアー P84



2-9 教育旅行

- 2-9-1 「飛鳥民家ステイ」による国内外からの教育旅行等受入 P86



2-10 MICE誘致の促進

- 2-10-1 ユニークベニューを活用したMICE誘致への取組 P88

2-11 域内交通との連携

- 2-11-1 「みさまぐるきっぷ」 P90
- 2-11-2 「インバウンド向けフリーきっぷで四国を周遊」
～公共交通が連携した周遊きっぷの展開～ P92



エコツーリズム

実施主体

阿寒湖温泉旅館組合、前田一步園財団、阿寒アイヌ工芸協同組合、阿寒湖漁協協同組合等

NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構
 釧路市阿寒町阿寒湖温泉二丁目六・二十
 TEL: 0154-67-3200
 URL: http://a.kushiro-lakeakan.com/overview/overview_category/charm-in-lakeakan/

北海道釧路市



国設阿寒湖畔スキー場の全景

アドベンチャートラベル市場に対する事業創出

国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化

ポイント

- 国際ブランド「Akan Lake Resort」の中核となる高付加価値型で自立運営可能なガイドツアー・滞在プログラムの開発・提供
- 世界にアピールする阿寒の夜の森の活用・宿泊拡大
- 上記を推進するDMCの設立と運営

取組の概要

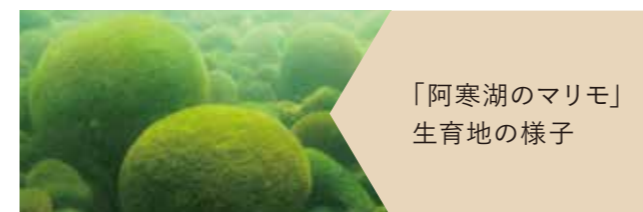
「国立公園満喫プロジェクト」を中心に、阿寒にしかない自然や文化の持続可能な活用を検討しており、阿寒でしか体験できない高付加価値型で自立運営可能なガイドツアー事業を開発・提供し、滞在者増を目指す。具体的には、これまで立ち入り禁止であった「マリモの自然生育地」での自然保護活動等の取組を行うプログラムや、ロングトレイルの

一部としての「白湯山自然探勝路」を活用したプログラム等を開発・検討している。また、先住民族アイヌの神話等をベースとした「自然との共生の物語」をデジタルアート等の最新技術を用いて「夜の森を舞台とした体験型テーマパーク」として展開し、宿泊者増を目指す。

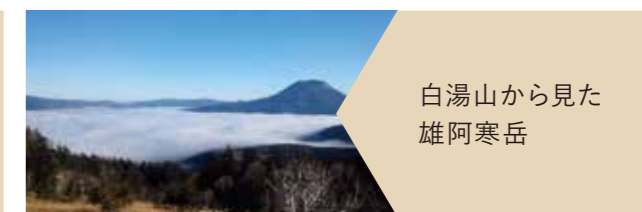
課題とマネジメント体制

平均宿泊日数が1.05泊と、ほとんどの観光客が1泊しかしないという課題があった。滞在型の地域を目指すには昼間の過ごし方を提案していく必要があると考え、アドベンチャートラベルに親和性の高い欧米豪の富裕層をターゲットとして設定。ニーズを的確に捉えて誘客につなげ、そのシェアを伸ばす取組を進めている。阿寒は、観光立国ショーケースや「国立公園満喫

プロジェクト」など、国の重要施策指定地域となっており、その推進のため、阿寒観光協会まちづくり推進機構は、地域DMOとして観光地づくりのマーケティング機能、各種非営利事業、営利事業の一部を担ってきたが、「稼げる地域づくり」を実現するためには、営利事業をより強力に推進することが不可欠であり、その推進のあり方について地域で議論を重ねてきた。



「阿寒湖のマリモ」生育地の様子



白湯山から見た雄阿寒岳



アイヌアートギャラリー展示作品の展示イメージ



阿寒湖の冬のアクティビティ

成功要因

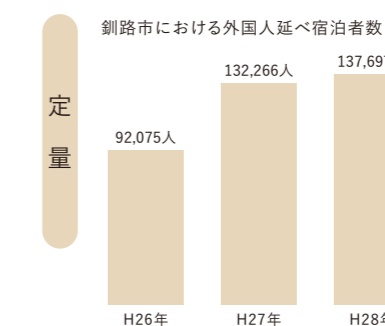
観光関係者のみならず、自然保護関係団体など地域の多様な主体を巻き込み、協議検討を深めたことで、取組への合意形成を円滑に得ることができた。観光立国ショーケース等の目標達成はDMOとして重要なミッションだが、その実現のために、DMOの戦略に基づく実動部隊としてのDMCを設立する。

失敗談とその対応

地域関係者との認識の相違が発生することもあるが、その都度話し合いを持ちながら方向付けを行っている。

取組の成果

国内・国外の「アドベンチャートラベル」の顧客層をターゲットとした事業創出及びプロモーション・販売を含めて運営を行う事業会社(DMC)を平成30年4月に設立するので、阿寒湖温泉の課題である滞在化や訪日外国人客の獲得において戦略的に取り組みたい。また、ターゲットに対し魅力あるコンテンツの開発・提供や効果的なプロモーションを実施することで着実に成果を出していきたい。



活用した支援策や資金調達方法

- 企業等からの出資金

外国人観光客への対応

白湯山自然探勝路やポッケ遊歩道等の整備を行った。

今後の展望

「アドベンチャートラベル市場」を最重要ターゲットとして捉えている。「アドベンチャートラベル市場」は世界的にも成長市場であり、日本の中で道東、特に阿寒エリアが中心となり、関係先と緊密に連携し、取組を推進していく。

エコツーリズム

実施主体

(株)美ら地球

(株)美ら地球
岐阜県飛騨市古川町式之町八・八
TEL : 0577-73-2104
URL : https://www.chura-boshi.com/

岐阜県飛騨市



サイクリング風景

暮らしを旅する

「SATOYAMA EXPERIENCE」

新たな観光資源の開拓

ポイント

- 1. 企業経営の手法を地域経営に当てはめてマーケティング・マネジメント機能を構築
- 2. 地域の日常を観光資源とし、外国人旅行者を中心とした新たな観光産業を創出
- 3. 地域の存続に寄与するサステイナブル・ツーリズムを推進

取組の概要

(株)美ら地球では、「SATOYAMA EXPERIENCE」というブランドのもと、地域においては当たり前の生活風景が、異なるライフスタイルをもつ人にとって魅力的に映るという点に着目し、飛騨地域の自然や伝統、生活文化に触れることができる着地型商品を平成21年から提供している。地元のガイドと里山エリアを巡る飛騨里山サイクリングと

いったフラッグシップツアーをはじめ、飛騨地域の食文化に触れるウォーキングツアー、料理研究家を招いての郷土料理体験プログラム、近年では棚田の広がる農村集落における冬季スノーシューツアーなどを、世界中から飛騨を訪れる旅行者に対して提供。持続的な事業運営を目指し、通年での多様なラインナップを展開している。

課題とマネジメント体制

平成16年に4つの町や村が合併して誕生した飛騨市においては、近隣の観光地と比べると観光産業の規模がそれほど大きくなく、地域における観光に対する意思も統一されていなかった。そのような中、平成19年設立の飛騨市観光協会の戦略アドバイザーに山田拓氏が就任、程なく(株)美ら地球を夫妻で創業する。アドバイザーとしてミッション・ビジョン・基本計画を策定し地域の進む方向を示していく

中で、自らの経験を生かして新規事業を立ち上げ、地域の活性化に資する取組に着手する。周辺の観光地との棲み分けとして、中心市街地の古い町並みや周辺の農村部の魅力を効率的かつ身近に感じられるよう、自転車によるガイドツアーを事業の核に据え、住民や地域の事業者等と一体となって旅行者を迎え入れる体制を構築している。



飛騨里山サイクリングガイドツアー



Food & Culture Walking Tour



中核人材

山田 拓

(株)美ら地球代表取締役。コンサルティング会社勤務の後、夫婦で525日の世界放浪を経験。帰国後は田舎暮らしを希望して飛騨市に移住。平成19年に美ら地球を創設。飛騨地域における事業のみならず、各地での講演や人材育成研修(とやま観光未来創造塾グローバルコース等)にも精力的に取り組み、国内外の地域振興に貢献している。

成功要因

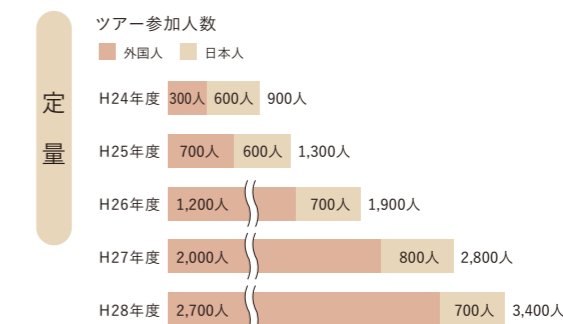
一般的な企業経営の手法を地域経営に当てはめ、誰に何をどのように届け、どのようにして顧客として獲得し、維持・向上していくのかを独自に検討し、PDCAサイクルを回し続けてきた。また、滞在時間が長く、すでに来訪実績があった欧米豪の個人旅行者をターゲットとし向き合ってきた。さらに、地域とゲストをつなぐ媒介者として地域の魅力をリアルに伝え、ツアーの付加価値を高めるガイドが存在したこと、住民が温かく迎え入れ、積極的に協力してくれたこと、古民家の現状を正しく把握するための聞き取り調査や民家の「お手入れお助け隊」といったボランティア活動、日常的な交流等を通して地域住民と積極的に接点をもち、地域への貢献、住民の豊かさの維持・向上に絶えず取り組んできたことが、現在のSATOYAMA EXPERIENCEにつながっている。

失敗談とその対応

事業を始めるにあたって、スキルを有する人材の確保に時間を要したが、確固たる理念を発信し事業を展開することで、それに共感する人材を他県より呼び込むことができた。また、ガイドツアー立ち上げ後のファースト・カスタマーの獲得は容易ではなかったが、近隣観光地に足を運び、その地を訪れる外国人旅行者を送迎車で地道に飛騨市に呼び込むことで、顧客による口コミコメントからのさらなる集客につながる流れを確立した。

取組の成果

TripAdvisorにおいて、地方部アクティビティ領域では日本一を誇る798件のレビューを獲得。そのうち747件が最高評価獲得(平成30年3月時点)。また、同サイトのCertificate of Excellenceを6年連続獲得。また、ゲストの約8割を欧米豪FITが占め、飛騨地域の滞在時間増加や消費単価増加に寄与。プロダクト数や事業拠点の増加によって創業時は2名だったスタッフが10名超となり、その家族等も含めて30～40名の移住者確保に貢献した。



活用した支援策や資金調達方法

事業立ち上げ以降、断続的に岐阜県等の支援策を活用したり金融機関からの融資を受けたりして事業を継続していたが、6年目の平成27年には組織単体として自立。各方面からの支援

を早期に切り離すことで、外的要因に依存しない持続性ある組織体制を構築してきた。

外国人観光客への対応

飛騨地域の玄関口、JR高山駅にて、高山の老舗企業と共同でカフェ「iCAFE」を運営。店内にSATOYAMA EXPERIENCEのツアーデスクを設置し、コンシェルジュ機能を持たせるとともにマーケティング拠点としても位置づけている。

今後の展望

- 「日本の田舎をクールに」コンサルティング分野と人材を育成する教育・研修分野において他地域と関わりを持つことで、日本全国の地域づくりに貢献する。
- 「世界の田舎をクールに」海外での講演や国際協力を通して、長期的には世界の地域振興に寄与する取組を展開する。

エコツーリズム

実施主体

兵庫県豊岡市、一般社団法人 豊岡観光イノベーション、NPO法人 コウノトリ市民研究所、コウノトリ湿地ネット、コミュニティなかつじ、田結区

豊岡市役所（コウノトリ共生課）
兵庫県豊岡市中央町二番四号
TEL：0796-23-1111（直通0796-21-9017）
URL：http://www.city.toyooka.lg.jp/hp/gene/tourism.html

兵庫県豊岡市



田んぼで採餌するコウノトリ

コウノトリを中心とした 地域経済の活性化 ～コウノトリツーリズム～

広域観光周遊ルートの世界水準への改善

ポイント

- 「観光」に「コウノトリ生息地保全活動」を組み合わせたエコツアーの企画、販売
- 観光事業者が積極的に保全活動に参画し、地域経済の好循環を進展
- 企業のCSR活動による官民連携の取組の展開

取組の概要

環境の悪化により減少したコウノトリの最後の生息地、豊岡市では、コウノトリを観察できる施設の運営など、野生復帰の普及啓発活動を促進するとともに、湿地の保全活動などに参加するエコツアーを豊岡市が中心となって行っており、これらの取組を「コウノトリツーリズム」として打ち出している。また、「県立コウノトリの郷公園」をはじめ、周辺の玄武洞や城

崎温泉といった文化財や山陰海岸ジオパークなどを組み合わせ、コウノトリを中心とした地域振興・観光に取り組んでいる。餌場確保のための「コウノトリ育む農法」も推進。農薬や化学肥料に頼らない米や大豆の圃場が整備され、生物多様性への寄与に加え、生産物の付加価値の向上による農家の所得増にもつながっている。

課題とマネジメント体制

以前は、城崎温泉などの観光地では、コウノトリの保全活動が行われていなかった。取組開始後は、城崎温泉の旅館で「コウノトリ育む農法」で栽培された米が使われたり、コウノトリ生息地保全のために使われるコウノトリ基金の募金箱が設置されるなど、観光地でもコウノトリの保全活動に寄与

する取組が生まれつつある。現在に至るまで、豊岡市が中心となってコウノトリツーリズムを行ってきたが、今後、豊岡版DMOの（一社）豊岡観光イノベーションに観光部門を任せ、豊岡市はコウノトリの保護に注力し、連携を図りながら取組を推進していく予定である。



田結湿地を案内する
ガイドグループ
「案ガールズ」



市外の子どもたちも
生息地保全活動
（外来種駆除）に参加



コウノトリ
育むお米

成功要因

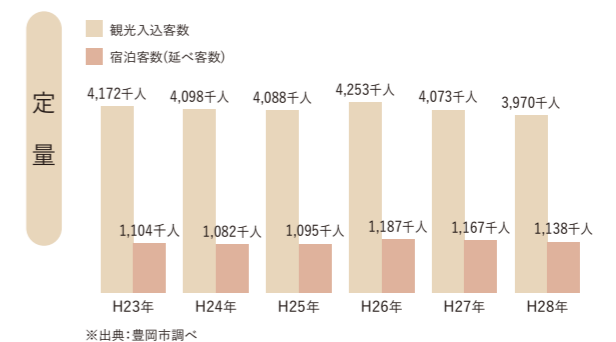
コウノトリ野生復帰の物語を発信し、野生復帰に共感する幅広い応援団を増やすことで、コウノトリ生息地保全活動の参加者が増え、コウノトリツーリズムが推進された。また、ラムサール条約湿地の田結湿地では、コウノトリの飛来をきっかけに、休耕田を生き物のための湿地として再生するとともに、地元の女性によって湿地を案内する「案ガールズ」が組織されるなど、生物多様性の取組を通じて埋もれていた地域の宝を活用するツーリズムが広がっている。

取組の成果

企業がCSR活動として豊岡市でのコウノトリの生息地保全活動に参加し、城崎温泉に宿泊するエコツアーを行うなど、官公庁のみならず民間を巻き込んだ取組を実施。また、（一社）豊岡観光イノベーションにコウノトリツーリズムを位置付け、コウノトリ生息地保全活動のエコツアーの企画・販売を実施。他にも豊岡市内外の学校でコウノトリ野生復帰の取組を学び、湿地保全活動をする学習ボランティアの参加者が増加している。

失敗談とその対応

コウノトリ野生復帰の取組が世界的に評価され、平成24年に豊岡市の「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録されたが、湿地の魅力を生かした取組が十分にできていないエリアがある。今後は（一社）豊岡観光イノベーションや地域おこし協力隊員を中心とし、コウノトリを核としたエコツアー等の充実を図ることで、コウノトリツーリズムを更に推進したい。



活用した支援策や資金調達方法

- 生物多様性保全推進交付金（環境省補助金）

外国人観光客への対応

コウノトリ野生復帰の英語版パンフレットの作成やコウノトリが観察できる施設（コウノトリ文化館やハチゴロウの戸島湿地）の英語版パンフレットの作成。

今後の展望

豊岡市は、城崎温泉を中心にインバウンドに取り組んでおり、外国人観光客が多く訪れるため、今後は外国人観光客にコウノトリの観察や湿地保全活動に参加してもらえるように英語でのガイドや展示パネルの多言語化などの対策を実施予定。今後更にコウノトリをはじめとした観光資源を有機的につなげていくために、豊岡版DMOの（一社）豊岡観光イノベーションを活用したCSR活動や教育旅行などの受け入れ増加に取り組む予定。

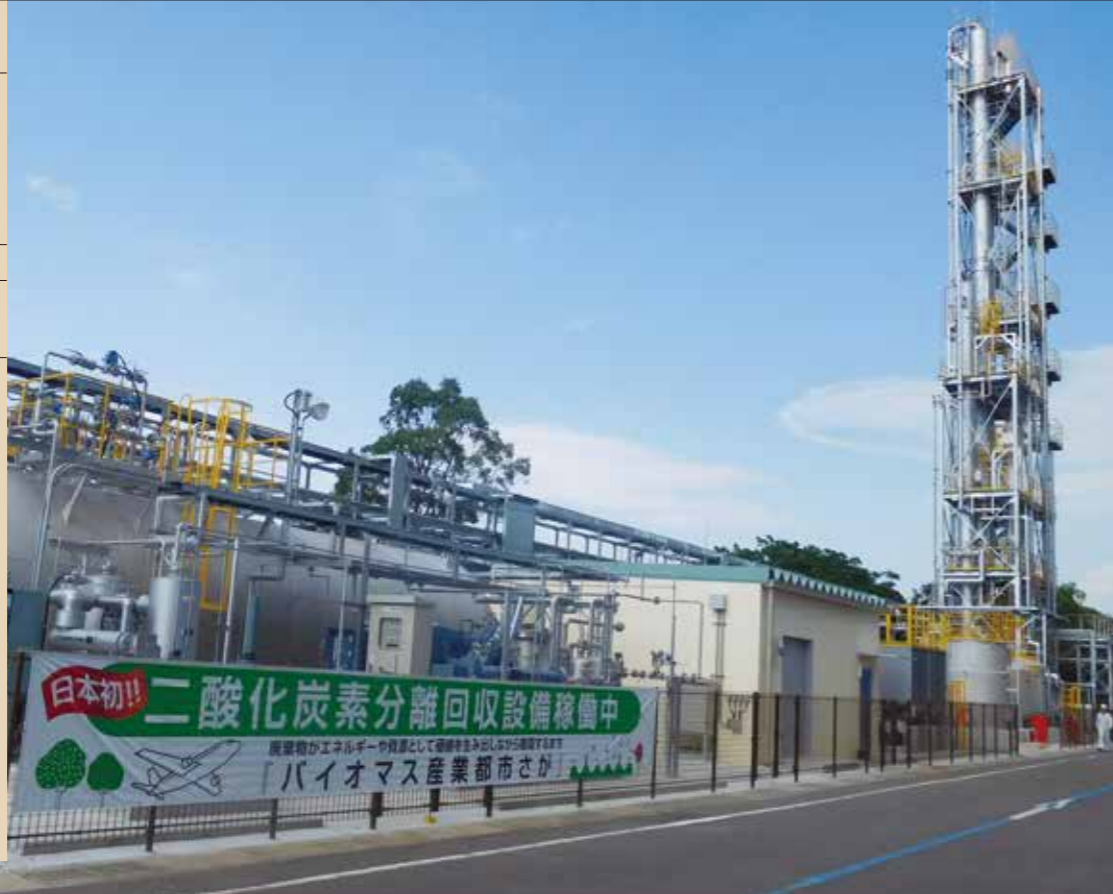
エコツーリズム

実施主体

佐賀市、佐賀市観光協会

バイオマスツアーさが
佐賀市白山二・七一 エスプラッツ二F
佐賀市観光交流プラザ
TEL: 0952-37-7489
URL: <https://www.sagabai.com/biomass/main/>

佐賀県佐賀市



日本初となるごみ処理の排ガスから二酸化炭素を分離改修する設備

ポイント

- 観光協会と連携し「バイオマス産業都市さが」の取組を効率的に案内するHPを開設
- バイオマス産業都市として飲食店や交通事業者と連携し、来訪者の市内消費額増加のための取組を実施

エネルギーと資源の循環を巡る「バイオマスツアーさが」

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

取組の概要

バイオマス産業都市である佐賀市は、ごみ処理や下水処理のための既存施設をバイオマス活用の核施設と位置付け、環境の保全と経済的な発展が両立するまち「バイオマス産業都市さが」の実現を目指している。バイオマス活用の核施設である清掃工場と下水浄化センターでは、これまで個別に視察に対応し、受入を行っていたが、取組全体を案内

する効率的なツアーの構築と市内消費の活性化を目的として平成29年6月に佐賀市観光協会と連携した専用ホームページを開設した。これらの施設の見学に加え、観光施設や特産品を提供する飲食店等を案内することにより、魅力的なバイオマスツアーの構築を目指している。

課題とマネジメント体制

清掃工場と下水浄化センターの両施設は、毎年約2,000名の視察を受け入れているが、個別に視察受付を行っていたことに加え、両施設間が遠距離であるためそれぞれの施設のみへの訪問が多く、佐賀市が推進するバイオマス事業全体の理解を深めるに至っていなかった。また、施設単体の訪問では市内滞在時間も短いため、視察者数に見合うだけの市

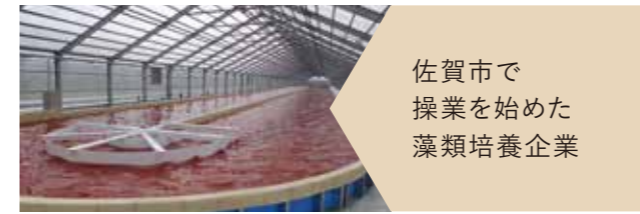
内経済波及効果が得られていないことも課題であった。これらの課題を解決するため、市内事業者を会員に持ち、市内観光資源にも精通している佐賀市観光協会を視察受入窓口とすることで、佐賀市の取組をトータルで説明できるツアーの構築が可能となるとともに、行程内に飲食店や観光施設を組み込むことで市内消費額向上に貢献している。



ごみ処理の熱や二酸化炭素を活用する清掃工場



汚泥の堆肥化や消化ガス発電を行う下水浄化センター



佐賀市で操業を始めた藻類培養企業



下水道資源を活用した藻類培養の実証研究

成功要因

清掃工場では、全国でも例のないごみ焼却時の排ガスから二酸化炭素を取り出す施設を整備し、その二酸化炭素を藻類培養や農業に活用する取組を進めている。また、下水浄化センターでは、水処理の過程で発生する汚泥の堆肥化や、消化ガスを利用した発電に取り組んでおり、これらの取組は「低炭素杯2017」でグランプリを獲得するなど、全国的な注目を集めている。これまで、迷惑施設と思われがちな施設を地域の方々に喜ばれる歓迎施設に転換するため、市民への広報活動を通じて循環資源(処理水・熱・二酸化炭素・堆肥・発電)を市民に還元できたことが成功要因である。

失敗談とその対応

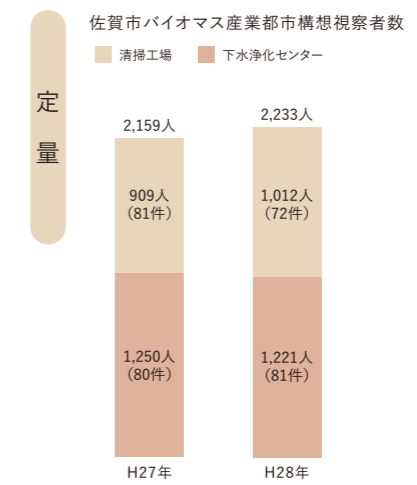
視察時の説明や案内などの対応は、各施設の職員で対応しているが、少人数での視察申込みについても受け入れているため、視察件数の増加により対応事務量も増大しておりその他の業務に支障をきたしている。今後は、催行日や最少催行人数を設定したツアーを検討することにより、事務効率化と併せて受入人数の拡大を目指している。一方で、清掃工場や下水浄化センターで取り組んでいる事業内容は専門性が高く、幅広い視察者に対し柔軟な対応が求められる。

取組の成果

観光資源のPR活動は、佐賀市観光協会「視察受入窓口「バイオマスツアーさが」と連携したことで、全国からの視察者数は飛躍的に増加している。これまで、迷惑施設と思われがちな施設が歓迎施設に進化してきた取組を紹介したことで、視察者の認識が深まり貴重な感想を頂いた。

<市民の声>
施設見学を体感し、普段何気なく出していたゴミが電気や熱のエネルギーとなることを知り、見学を通じて環境センターがより身近な施設であると感じました。

<行政関係者・事業者の声>
処理水の無償提供や汚泥から作った肥料の安価な販売など市民に還元する仕組みが整っており、素晴らしい取組だと感じた。



今後の展望

佐賀市のバイオマス事業は先進的な取組であるため、毎年一定数の視察者が見込まれる。また、現在は藻類を軸とした新産業創出を目指し、世界最大規模となる21haの培養拠点地の整備と藻類培養企業の進出を計画している。さらに、二酸化炭素は環境制御型植物工場への利用も視野に入れており、関連企業の誘致活動も積極的に行っているところである。

清掃工場と下水浄化センターに加え、これらのバイオマス関連企業が佐賀市に根付くことにより、「バイオマス産業都市さが」としての独自性が増すことで、バイオマスツアーの誘客力の強化を見込んでいる。また、観光協会と連携した着地型バックツアーを構築することで、更なる市内消費の増加と観光PRに取り組んでいく。

エコツーリズム

実施主体

薩摩川内市、(株)薩摩川内市観光物産協会、
甌島ツーリズム推進協議会

薩摩川内市商工観光部観光・シティセールス課
鹿児島県薩摩川内市神田町三二二二
TEL : 0996-23-5111
URL : <https://satsumasendai.gr.jp>

鹿児島県
薩摩川内市



ガイドによる観光案内

甌島の資源の保護と活用による 観光振興を主軸とした地域振興 ～エコツーリズムからジオツーリズムへ～

景観の優れた観光資産の保全・活用による観光地の魅力向上

ポイント

- 行政、地区コミュニティ協議会、地域おこし協力隊など、島が一体となって島の魅力を最大限に満喫できる観光地域づくりを推進
- 観光産業のみならず、様々な産業分野の発展に寄与し、島民の所得向上と雇用機会の拡充を図る

取組の概要

鹿児島県薩摩半島から西へ約30キロの東シナ海に位置する甌島は、上甌島・中甌島・下甌島と縦に3島を連ね、鹿島断壁などの美しい景観、カノコリやカラスバト等の貴重な動植物、国指定無形民俗文化財指定「トシドン」、新鮮な魚介類を生かした食など、特色ある観光資源にあふれ、国定公園の指定も受けている離島である。平成21年度の観

光元年宣言以降、薩摩川内市と観光物産協会が中心となり、旅行会社などへのプロモーション活動による旅行誘致と、受入環境整備を進めている。また、観光案内所の設置や観光船、ダイビング、定置網観光といった、島の資源を活用した様々な着地型旅行商品の造成など、観光客の利便性と満足度の向上に恒常的に努めている。

課題とマネジメント体制

以前は、甌島の魅力を発信する媒体がなく、情報発信が行われていないため、島を知るお客様が各自で手配して観光地を巡ることが常であった。地域資源の保護や活用について無関心であったり、宿泊、飲食業など受入環境が整っていないなどの課題もあった。

平成25年度に(株)薩摩川内市観光物産協会が設立され、甌

島観光の情報発信やワンストップ窓口化、地域住民との合意形成を行い、地域資源を活用した体験プログラムの造成などに努めた。また、エコツーリズムを推進する鍵となる人材について、将来のジオガイドも見据え、インタープリター育成講座を実施し、ジオサイトとなる地域資源についての知識を深めている。



地域住民による
観光素材勉強会
(地層)



島内中学生による
地域再発見
意見交換会

成功要因

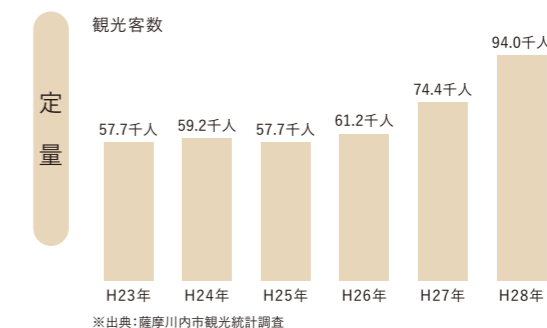
地域おこし協力隊など若い世代が中心となって、地域資源の掘り起こしや商品開発、情報発信に努めることによって、お客様に情報が訴求し、甌島の認知度が向上した。また、行政もプロモーション活動やエージェントメディア招へい事業に力を入れ、メディア等の露出の機会が増加した。

失敗談とその対応

体験プログラムを開発するに際して、地域住民にとっては当たり前の習慣や風景が商品となるのかという不安が大きく、実践されるまでに一定の時間を要した。一方、ガイドの研修会などを複数回開催し、お客様に喜ばれる案内などスキルの向上に努めた。

取組の成果

平成27年3月に官・民・地域住民を巻き込む形で「甌島ツーリズムビジョン」を策定。「こころ・自然・時空(とき)がつながる島」を基本コンセプトとして共有することで、行政、地区コミュニティ協議会、地域おこし協力隊など、島が一体となって島の魅力を最大限に満喫できる観光地域づくりを進めている。また、島内外の交流の活発化と地域産業全体の隆盛による島民の所得向上と雇用機会の拡充を実現している。



活用した支援策や資金調達方法

- 国 離島活性化交付金
- 鹿児島県 特定離島ふるさとおこし推進事業

外国人観光客への対応

平成30年度から、英語、中国語、韓国語など多言語対応による音声ガイドシステムの導入を予定している。

今後の展望

平成27年3月に策定した甌島ツーリズムビジョンをもとに、観光振興を主軸とした地域振興を実践していくため、造成した体験プログラムの磨き上げや新規コンテンツの開発、宿泊施設不足や働き手不足などの課題解決に地域住民と協同で取り組み、だれもが誇れる甌島を、次世代につなぐ取組を進めていく。また、平成28～29年度にジオパーク可能性調査等を実施し、今後ジオパークの認定に向けた検討を進めていく。

ガストロノミー ツーリズム

実施主体

新潟市、
公益財団法人 新潟観光コンベンション協会、
一般社団法人 ピースキッチン新潟

一般社団法人 ピースキッチン新潟
新潟市中央区西堀前通六・八九四、一
TEL : 025-211-8989
URL : <http://peace-kitchen.org/nigata/>



田園風景も料理の一部

新潟ガストロノミーツーリズムの 扉を開くレストランバス

広域観光周遊ルートの世界水準への改善

ポイント

- 新潟のガストロノミーツーリズムを形にするレストランバスの運行
- 地域で観光コンテンツを構築する人材育成と横断的なチーム作り
- ▶ レストランバスという日本初のコンテンツの導入

取組の概要

新潟市は、信濃川と阿賀野川の河口流域の肥沃な土壌のなかで広がる田園風景に代表されるように、米文化、酒文化の食にまつわる資源の宝庫である。しかしこれらを観光コンテンツとして生かされていなかった。そこで、食を通じて和を作る「ピースキッチン」の理念を掲げ、単なる「食事ツアー」ではなく、参加者が食を通じて地域の自然、歴史、

文化などを知り、楽しむ観光形態「ガストロノミーツーリズム」の推進を始めた。2階が客席で1階を厨房とした日本初レストランバスを導入し、田園風景と地域の旬の食材を楽しむ観光コンテンツを構築・販売した。またレストランバスの運行を通して、新潟の食文化の魅力の発信に取り組んでいる。

課題とマネジメント体制

新潟市は、集客するための拠点施設が乏しく、域外からの観光集客が弱かった。そのため観光客の受入による地域マネジメントの意識は低く、行政依存の体質が定着していることが大きな課題であった。そこで事業の自走化を意識した事業展開を進めた。レストランバスの導入により、地域の食を生み出す風景の価値を引き出し、そして生かす生産

者や料理人とのつながりを中心に据えた地域マネジメント体制を構築している。また、生産者の想いを形にする料理人の育成や、生産者の想いと料理人の技術・表現をつなぎ、観光客に紹介することができるナビゲーターの人材育成を行っている。今後、生産者、料理人、ナビゲーターによるチーム作りを目指している。



新潟駅から出発する
レストランバス



オープンルーフで
開放感を味わう
レストランバス



集落あげでの
受入体制

成功要因

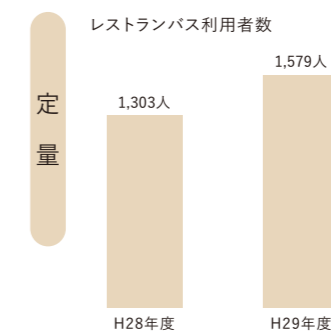
レストランバスという日本初のコンテンツを導入したことで、インパクトが生まれ生産者、料理人、宿泊関係者など、今後観光コンテンツを担う人たちの意識が高まったことが成功要因といえる。また日本初の取組であることから、メディアに取り上げられ、注目度が高まったことも要因といえる。

失敗談とその対応

ガストロノミーツーリズムの対象となるターゲット層が初期の段階では把握することができなかつたため、試行錯誤しながらツアー造成、販売を行った。そのため平日での利用はなかなか伸びず、収益性に問題が多くあった。取組を継続することで、旅行会社の利用も生まれ始め、改善が見られつつある。

取組の成果

新潟市におけるガストロノミーツーリズムへの取組が引き出され、シェフの育成、活躍が推進された。地域の素材を使った旅行商品を地域で企画・造成、販売する流れの中で、レストランバスという強力なコンテンツの販売展開が整理された。また、新潟に存在する複数の地域素材をパッケージ化しツアーコース化することで、高付加価値化が図られることから、地域素材をとりまとめる組織の重要性が認識された。



活用した支援策や資金調達方法

- 地方創生加速化交付金

外国人観光客への対応

ナビゲーターによる外国人への対応、外国人への販売チャンネルの強化。

今後の展望

レストランバスについては、4～6月の期間限定の取組だが、今後、レストランバスを実施しない時期においても同様のコンテンツ提供による観光受入体制の構築を図る。また新潟市のみならずより広域的な視点での展開により、平日における観光集客コンテンツを整え、受入組織の経営効率を高めていく。また、農家と都市住民の密接な距離感を生かすことでレストランバスの価値を最も創出することができることから、各季節の旬の食材を楽しむことができる観光「ガストロノミーツーリズム」を確立させ、より外国人観光客の集客を図る。

酒蔵 ツーリズム

実施主体

鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会

鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会
(事務局 鹿島市商工観光課)
佐賀県鹿島市大字納富分二六四三ー一
TEL : 0954-63-3412
URL : <http://sakagura-tourism.com/main/>



佐賀県鹿島市



鹿島酒蔵ツーリズムと同日開催している「鹿島おまつり市」(平成29年)

酒蔵を活用した地域全体の 観光振興策

広域観光周遊ルートの世界水準への改善

ポイント

- 酒蔵と観光資源を巡らせる「酒蔵ツーリズム®」の普及
- 市内で製造される酒類と地域が持つ文化や歴史を合わせ国内外へ情報発信
- 「酒蔵ツーリズム」の商標登録を取得し、その普及・啓発に取り組む
- 訪日外国人旅行者に対する年間を通じた情報提供手段や受入体制の整備

取組の概要

鹿島市は、佐賀県南西部に位置した多良岳山系の清水や良質なお米に恵まれ、江戸時代から酒造りが盛んに行われ、現在では6つの自社製造の造り酒屋があり、県下有数の酒どころとなっている。そのうちの1つの造り酒屋である「富久千代酒造」の“鍋島 大吟醸”が平成23年IWC日本酒部門において“チャンピオン・サケ”を獲得し、世界一の酒が生まれたまちとして知られることとなった。これをきっかけ

に鹿島の地酒を文化や歴史と複合させ、広く情報発信をすることを目的に、市内6蔵元を中心に「鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会」を立ち上げる。この協議会では「鹿島酒蔵ツーリズム®」を過去6回開催し、スタンプラリーの実施や酒の販売等を行うなど、鹿島の酒のPR及びその生まれたまちを楽しく観光できる取組を展開することで、「酒どころ“鹿島”」の認知度向上に一役を担っている。

課題とマネジメント体制

鹿島市には造り酒屋が以前から存在していたが、“酒文化”が定着するほど、鹿島市内での認知度は高くなかった。しかし、平成23年のIWCにおいて鹿島の造り酒屋から世界一の酒が生まれたことを契機として、平成23年11月に6蔵元が中心となり、“鹿島酒蔵ツーリズム®”の運営母体となる

「鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会」を設立。平成25年3月には全国で2番目となる「鹿島市日本酒で乾杯を推進する条例」を条例化、さらには「酒蔵ツーリズム」を商標登録することで、“鹿島市”=“お酒”の定着への取組を始める。



鹿島酒蔵ツーリズムの
メイン会場の
1つとなる「肥前浜宿」



循環バス乗降風景



鹿島酒蔵ツーリズムと
同日開催している
「祐徳門前春まつり」
(平成29年)

成功要因

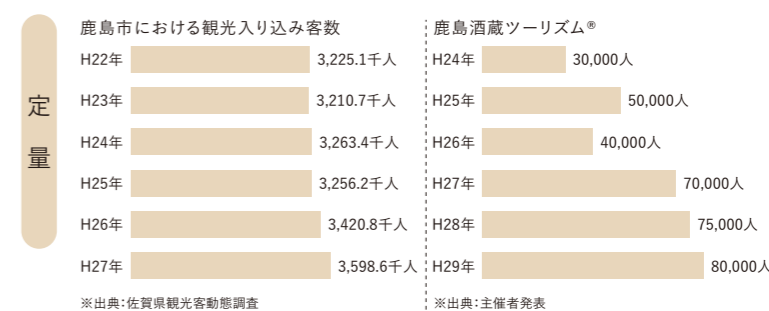
全国でもいち早く「酒蔵ツーリズム」として実施し、話題を集めたこともあるが、地元の6酒蔵が鹿島全体の活性化のために協力的であったことが最大の成功要因である。また、鹿島市内で別々で開催していた様々なイベントを「鹿島酒蔵ツーリズム®」に併せて開催し、さらには近隣町村との連携により広域での開催にしたことで、来訪者にとって飽きないイベントになっていることも成功要因の1つに挙げられる。

失敗談とその対応

「鹿島酒蔵ツーリズム®」の来場者が回数を重ねる度に増加したため、イベントスタッフの不足が大きな問題となっていた。解決策を模索していたところ、4回目の開催の際に市内2金融機関よりイベントスタッフへの協力申し入れがあり、多くの協力を得ることになった。これを機に、現在では協力機関が市内5金融機関に広がり、イベントスタッフ不足解消の一端を担っている。

取組の成果

全国的に、「酒蔵ツーリズムの先駆け」「世界一の酒が生まれたまち」として、以前と比較してメディアに取り上げられることが多くなり、鹿島市の認知度向上に寄与している。地元においては、女性や若い世代の地酒消費量が増え、“鹿島市”=“お酒”の定着が進んでいる。また、「鹿島酒蔵ツーリズム®」の来場者が通年で来訪し、交流人口の増加にもつながっている。



活用した支援策や資金調達方法

- 正会員負担金
- 団体負担金
- 観光客誘致環境整備支援事業(平成28年度のみ)

外国人観光客への対応

- 鹿島酒蔵ツーリズム英訳ホームページ 作成
以前より開設していた「鹿島酒蔵ツーリズム ホームページ」からワンクリックで英語表記に変換できるようにする。
- 市内6蔵元案内看板 英語併記 製作
市内自社製造6蔵の蔵歴史パネル(6枚)及び蔵内案内パネル(計27枚)を英語併記にして製作する。
- 鹿島酒蔵ツーリズム ガイドブック 英語版 製作
すでに製作していた市内自社製造6蔵などを紹介した「鹿島酒蔵ツーリズム ガイドブック」を、英語に翻訳し、作成する。

今後の展望

鹿島市は市内交通の便が悪く、「鹿島酒蔵ツーリズム®」も広域開催ということから、来場者の利便性を考え、無料バスを運行させることで交通網の課題を解決している。また、実施主体である協議会では、一過性のイベントにならないよう、通年型の取組の充実を図るため、“酒蔵から地域”への啓発活動も視野に入れて取組を図っている。

ロケツーリズム

実施主体

千葉県いすみ市／
いすみ外房フィルムコミッション

いすみ市オリンピック・観光課シティブロモーション班
千葉県いすみ市大原七四〇〇ー一
TEL: 0470-62-1243

千葉県いすみ市



第3回全国ふるさと甲子園 グルメ部門第1位

ロケツーリズムの取組

広域観光周遊ルートの世界水準への改善

ポイント

- 豊かな自然環境と東京からの距離を生かしたロケ誘致
- 広域連携(2市2町)による多彩なロケ地の紹介と誘致
- ▶ ロケ実績や作品に絡めたグルメ開発等によるシティブロモーションの展開

取組の概要

いすみ市は豊かな自然環境と東京から特急で約70分という距離を財産と捉え、映画やTV等の誘致による地域の魅力発信、地域経済の活性化及び観光振興を図ることを目的に、積極的なフィルムコミッション事業を展開。夷隅地域が広域で連携することにより、各自治体の特徴を生かした相互補完型の多彩なロケ誘致が可能となっている。ロケや

作品に絡めたグルメ開発も行い、シティブロモーションに活用。さらに、国の地域再生計画に認定された「美食の街いすみ～サンセバスチャン化計画～」により、豊富で高品質な食材を活用した食事メニューの開発・地元産品の販売力向上を推進。積極的なPRのための情報番組の誘致も意欲的に実施している。

課題とマネジメント体制

いすみ市の人口が少子高齢化の急速な進展により減り続けていることに危機感を抱き、地域活性化施策に取り組み始めた。平成27年には、地域創生の取組を定めた「いすみ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のなかで、TVや映画等の誘致に取り組み、「ロケ誘致による地域の魅力発信と地域の魅力の再認識」を目標のひとつに掲げ、シティブロモ-

ーションに活用している。そうした中で、いすみ市役所内に2市2町が連携する事務局として「いすみ外房フィルムコミッション」を設立。様々な情報を集約化し、窓口を一本化するとともに、商工会・漁協など市内の組織が連携しながら、官民一体で事業に取り組むことで、ロケ誘致の実績向上につながっている。



いすみ市における
ロケーション
撮影風景



全国ふるさと甲子園
出展を機に誕生した
「じあとん丼」

成功要因

ロケを活用したシティブロモーションの専門家である「藤崎慎一」氏(㈱地域活性プランニング)を招聘し、専門的なノウハウと先進地の成功例・失敗例を参考に事業展開を行ったことにより、スピーディーな対応が可能となった。

取組の成果

東京都心から約70分という距離であり、ロケ誘致による認知度の向上と豊かな食材によるまちづくりの取組によって、TVの情報番組や新聞・雑誌・ラジオなど多くのメディアに取り上げられることが多くなった。地域住民や商工会等からも、いすみへの新たな人の流れができてきている声があがっている。

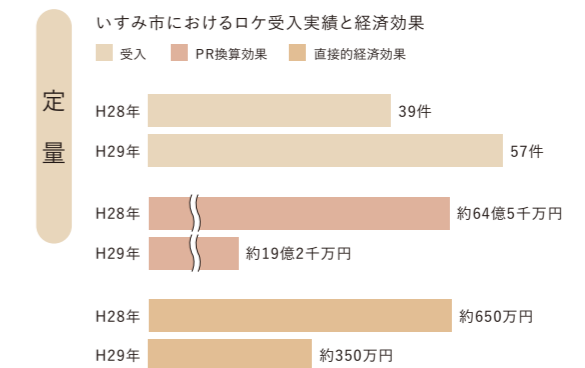


中核人材

早川 卓也 (いすみ市副市長)
ロケ誘致によるシティブロモーションを地方創生の柱として実行した中心人物(総務省より派遣)
平成27年4月～ いすみ市地域創生担当参事
平成29年4月～ いすみ市副市長

失敗談とその対応

ロケ誘致を通じてのシティブロモーションが権利処理等を伴うことによりうまくいかなかった。対応としては、補助金等を活用して専門家の招聘やロケに関する雑誌等への掲載、PRパンフレットの作成等を行い、ノウハウの蓄積と効果的なPRをすることができた。



活用した支援策や資金調達方法

- 地方創生先行型交付金
- 全国展開支援事業補助金

現在はないが、今後はルールを定め、ロケ立ち会い料やロケ弁、宿泊施設紹介料などを徴収し、組織の運営資金として活用していきたい。

外国人観光客への対応

2020年東京オリンピックのサーフィン会場隣接地域となったことに伴い、現在、外国人観光客の受入体制の整備や訪日教育旅行の受入など、様々なインバウンド対策を実施。また、昨年、訪日教育旅行事業として台湾からの高校生を30名程度受け入れ、ホームステイや異文化体験などを実施した。

今後の展望

積極的なロケ誘致と支援により、当市がメインロケ地となるような作品を誘致することでシティブロモーションを一層活用し、ロケ実績や作品に絡めたグルメ開発によって、観光客の増加及び移住者の増加につなげていきたい。また、将来的に全国、また世界に向けて「ロケのまち いすみ」というイメージを定着させていきたい。

サイクル ツーリズム

実施主体

滋賀県、滋賀プラス・サイクル推進協議会、
(公社)びわこビジターズビューロー、
輪の国びわ湖推進協議会ほか

滋賀県観光交流局ビワイチ推進室
大津市京町四一―一
TEL : 077-528-3746
URL : http://www.pref.shiga.lg.jp/f/kanko/biwaichi_cycling/biwaichi_top.html

滋賀県全域



「湖畔をサイクリング(ビワイチ)」

サイクルツーリズムで 地域活性化を目指す 「ビワイチ」

新たな観光資源の開拓

ポイント

- 琵琶湖を自転車やトレイルで一周する行動を「ビワイチ」としてブランド化
- 特定の業種だけでなく、自転車、観光、交通など様々な事業者が連携した取組
- 広域周遊を目指したコース設定と、食・文化・歴史等の魅力を体感できるサイクルツーリズムの推進

取組の概要

琵琶湖一周を意味する「ビワイチ」の愛称は、全国のサイクリング、ウォーキングの愛好家たちから親しまれ、滋賀県や琵琶湖の代名詞として根付きつつある。「ビワイチ」を安心・安全に、多様な人々が楽しめるコンテンツとして確立させるとともに、琵琶湖沿岸に限定することなく、県内全域を周遊することを目指して、サイクリングコー

スを設定するなど、県内全域への自転車による周遊観光を推進している。また、国内外からのサイクリストを迎え入れる取組を県内に広く展開。歴史、文化、豊かな自然、近江牛や湖魚といった食等、滋賀県の多彩な魅力を体感・体験できるサイクルツーリズムの促進に取り組んでいる。

課題とマネジメント体制

「ビワイチ」推進の機運が高まる中で、県庁内に事務局として「ビワイチ推進室」を設置(平成29年4月)し、ただ琵琶湖沿いを走るだけでなく、内陸部へのコース「ビワイチプラス」による県全域への誘客や立ち寄りスポットの発信など滞在時間の拡大による経済効果増大を目指している。また、事業者や市民とともに、地域活性化へつなぐ指針「ビ

ワイチ推進総合ビジョン」を策定。各事業者はその計画を踏まえ、それぞれ事業を推進している。様々な主体が有機的に連携することが不可欠であるため、官民で組織しているプラス・サイクル推進協議会等と連携を図り、ルール・マナー、安全の確保や情報発信、受入環境整備等に取り組んでいる。



夕焼けの中を疾走



湖沿いの小道を
ゆっくりと進む



賤ヶ岳付近から
琵琶湖を望む

成功要因

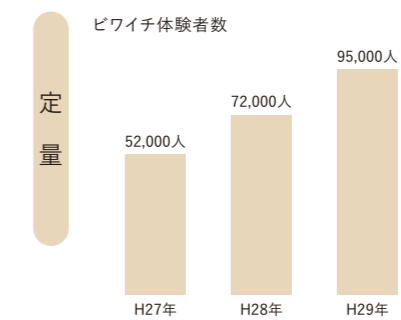
「ビワイチ」の取組を国内外に広く周知することを目的に、地元企業や美術館等の施設、地元を代表する金融機関と連携を図り、新たな企画を実現することができた。また、国内だけではなく、インバウンド誘客につながる取組を進めていくために、自治体間の連携にも注力。守山市と今治市は「自転車を通じたまちづくり交流協定」を締結し、相互にPRを行っている。

失敗談とその対応

サイクルツーリズムは行政だけが行うのではなく、事業者や地域、関係団体が一体となって取り組むべきものである。事業者や地域の住民の中にはサイクリングについて基礎知識のない人も多いため、「ビワイチ」の計画策定にあたっては、「県が」「やるべきことを箇条書きに」「役割分担を明記する」ような計画をつくるべきではなく、まず様々な人々が「理想像」を共有することが必要と考えて方針を変更。理想とする「ビワイチ」を物語として描くビジョンを策定することとした。

取組の成果

サイクリングの名所として注目を集め、県としての露出機会が増えた。特に、海外に向けては来訪したサイクリストが直接SNSで発信をすることから飛躍的に情報が拡散され、多くの来訪が続いている。また、サイクリストが随所で見られるようになり、その「立ち寄り」で県内施設が活性化している。



活用した支援策や資金調達方法

- 地方創生加速化交付金
- 地方創生拠点整備交付金
- 地方創生推進交付金

外国人観光客への対応

サイクリングマップを多言語化し、サイクルサポートステーションへ多言語シートを配布した。

今後の展望

「ビワイチ推進総合ビジョン」の作成による、県、市町、事業者、地域等が一体となった自立的な「ビワイチ」推進体制を構築し、「ビワイチ」による持続的な地域の活性化を実現していく。

サイクル ツーリズム

実施主体

瀬戸内しまなみ海道振興協議会(現在は発展改組し一般社団法人しまなみジャパン)、瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会実行委員会(現在はサイクリングしまなみ2018実行委員会)、愛媛県、広島県、NPOシクロツーリズムしまなみ

一般社団法人しまなみジャパン
広島県尾道市東御所十一・九ノA尾道市駅前ビル一階
TEL: 0848-22-4073
URL: <http://shimamami-cycle.or.jp>

サイクリングしまなみ実行委員会(愛媛県経済労働部観光交流局観光物産課)
愛媛県松山市一番町四丁目四番地二
TEL: 089-912-2492
URL: <http://www.cycling-shimamami.jp/>



瀬戸内しまなみ海道サイクリング(左) / 国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」(右)

ポイント

- 官民連携したサイクルツーリズムの先進的な受入環境の整備
- 国内外への効果的なプロモーションの実施
- 国際サイクリング大会開催に伴い自動車道を一部規制して活用

サイクリストの聖地

『瀬戸内しまなみ海道』を核とした サイクルツーリズムの推進

新たな観光資源の開拓

取組の概要

「瀬戸内しまなみ海道」の最大の魅力は、「自転車で渡ることができる」こと。サイクルツーリズムを推進するため、複数の自治体や関係団体が連携し、自転車道の通行料金無料化やレンタサイクル事業、路面敷設、サイクルスタンドの設置等といった環境整備や地元住民の理解促進、そして、住民参画によるサイクルオアシス等の開設、インバウンドを含

めた誘致プロモーション、多言語対応のマップや観光案内板の整備等、様々な取組を積極的に行ってきた。また、国内最大級の国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」を、平成26年から2年に1回のペースで開催。自動車道本線の一部を通行止めにして実施することでプレミアム感を演出し、大きな宣伝効果を得ている。

課題とマネジメント体制

取組以前、沿線自治体(特に島しょ部)には少子高齢化による人口減少や地域経済の停滞といった課題があった。これらの課題をサイクリングによる交流人口の増加によって解決しようと、「瀬戸内しまなみ海道振興協議会(現一般社団法人しまなみジャパン)」と愛媛県、広島県、地域住民、NPO、JB本四国高速ほか民間企業や団体等が連携し、環

境整備やプロモーション等に取り組んでいる。具体的には自転車持ち込み可能な宿泊施設の整備、手荷物配送サービス、サイクルトレインの運行、海外向けのプロモーションや国際サイクリング大会の開催等、ハード面とソフト面にわたって、サイクルツーリズムの推進に取り組んでいる。



サイクリストの聖地碑



サイクリストの休憩所
「サイクルオアシス」



しまなみ海道
レンタサイクル

成功要因

サイクリストの視点に合わせた受入環境を積極的に整備したこと。世界最大の自転車メーカー「GIANT社」との協力・連携や、国際サイクリング大会における高速道路の交通規制という他のイベントにないプレミアム感を演出し、国内外への効果的なプロモーションを実施したことが成功に繋がった。国際サイクリング大会の開催にあたっては、関係自治体、JB本四国高速ほか民間企業と入念な準備を行い、通行止めとなる橋の区間はフェリーを臨時運航させることによって地域住民の理解を得ている。

取組の成果

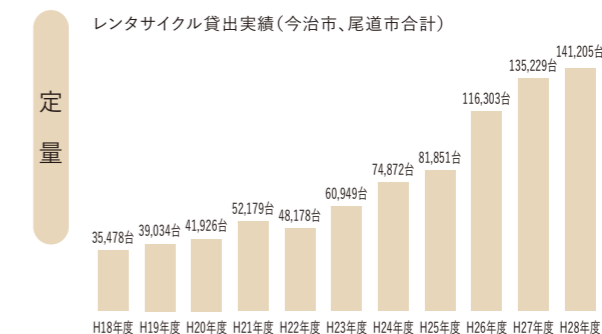
「瀬戸内しまなみ海道振興協議会」によるサークルツーリズムの先進的取組が評価され、「スポーツ文化ツーリズムアワード2016」で大賞を受賞。「サイクリストの聖地」としてブランド確立に成功し、海外メディアからも高い評価を得ている。また、しまなみ海道開通時より交流人口は確実に増えており、サイクリングを切り口とした地域の活性化や滞在型観光の促進が図られている。国際サイクリング大会の経済効果においては、2014年大会が約6.3億円、2016年大会が約3.1億円となっており、地域に好影響を与えている。

外国人観光客への対応

多言語によるサイクリングマップを作成・配布し、多言語による観光案内板を整備した。

失敗談とその対応

「瀬戸内しまなみ海道振興協議会」は、域内の地方公共団体と商工関連団体が構成された任意協議会として、平成19年度より観光振興を担ってきたが、従来の推進体制では限界があるため、同協議会を母体に発展改組し、エリアのマーケティング／マネジメントのかじ取り役となるDMO組織として「一般社団法人しまなみジャパン」を平成29年3月に設立した。



今後の展望

サイクリングを切り口とした更なるインバウンド獲得を掲げ、サイクリストの聖地として世界に情報を発信し、多様なサイクリング観光客の需要に対する受入体制の整備について、関係機関等との連携を強化する。また、「瀬戸内しまなみ海道振興協議会」からDMO組織として機能強化した「一般社団法人しまなみジャパン」においては、マーケティングに基づくプロモーションや地域資源を生かした観光コンテンツの開発・造成などの観光戦略を展開し、より一層の地域振興・ブランド化を進めたい。

フットパス ツーリズム

実施主体

合同会社フットパス研究所

合同会社フットパス研究所
熊本県下益城郡美里町馬場七四九一
TEL : 0964-53-9997
URL : <https://footpathabo.jimdo.com/>

熊本県美里町



棚田の中も歩けるフットパス

着地型観光商品

“美里式フットパスツーリズム コース”の開発と販路開拓

広域観光周遊ルートの世界水準への改善

ポイント

- ▶ 里山、石橋、棚田等、日本の原風景を生かした着地型旅行商品の開発
- お茶や漬けものの提供、伝統行事の体験など、参加者への地域ぐるみのおもてなしの充実
- ▶ 初期段階から収益構造を組み立てたことによる自立運営の実現

取組の概要

熊本市から南東へ約30kmに位置する美里町は、美しい里山景観を持ち、石橋群、棚田群、砥用の古い街並み等の日本の原風景が数多く残っている。平成23年からフットパスの取組を開始。昔ながらの風景に加えて、地域住民との触れ合いや交流を楽しみながら歩くことが出来る「美里フットパス」の発掘やコー

ス開発、地域住民の参画推進、更には情報発信やプロモーション等に至るまで取り組み、交流人口の増加へと繋げている。※「フットパス」=イギリスを発祥とする、森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径(こみち)。

課題とマネジメント体制

日本一の石段や江戸時代に架橋の石橋群、素晴らしい田園景観などの観光資源があるものの、訪問者は車で立ち寄り観光にとどまり、滞在時間が短く、地域経済への波及効果が薄い状況であった。このような中、代表の井澤氏と副代表の濱田氏は、同町の観光資源を活用した滞在時間の長い着地型観光に

向け、平成23年にフットパスの取組を開始。平成25年には任意団体を設立し、調査研究、地域住民との触れ合いや交流を楽しみながら歩く「美里フットパス」の発掘やコースを開発。また、町の広報誌やチラシを配り、地域住民の参画推進等の取組を進め、平成28年には事業化を目指して法人化を行っている。



地域の人たちだけが知る道を探してコースに



時には軽トラックの荷台もおもてなしの場所に



中核人材

井澤 り子、濱田 孝正

フットパスの伝道師の井澤るり子(上)と濱田孝正(下)九州でのフットパスの先導役として、平成23年から現在までフットパスに関する公演活動やセミナーなどの開催を全国で行っている。



成功要因

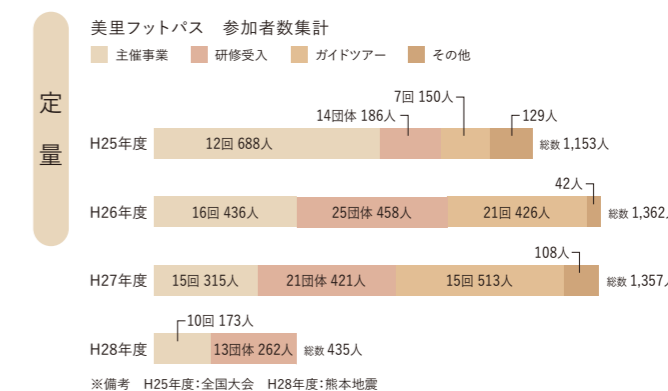
「歩く」という人間の普遍的な活動をテーマにしていることで、地域の人々への説明が非常に分かりやすかった。コース作りも時間をかけてじっくりと地域の人たちの意見を取り入れながら行ったので、地域へじわじわ浸透していった。2年間は補助金を受給しながら取り組み始めたが、最初から自立運営を目標として収益構造(物販、会費、参加費、委託事業等)を組み立てたことで、独り立ちが早かった。

失敗談とその対応

フットパスコースについては、活用していく中で、距離が長すぎるコースや変更したいコースも出てきたため、次回のマップ改定時期にコース変更なども行っていきたい。また、「ここを通ってほしい」など地域からの提案があったコースについては、ルートを変更して対応した。

取組の成果

平成23年より3年間で合計15コースを整備し、認知度向上のためのインバウンド向けプロモーションやガイドの育成を行い、多様な参加方法により土台を作りあげた結果、平成28年度は約3,000名が美里町を訪れた。中核人材である井澤氏および濱田氏は、日本フットパス協会において、国内のフットパスの第一人者として評価を受けており、全国の自治体や地域づくり団体等から講演、美里町での実地研修、導入指導アドバイス等の依頼が多数寄せられている。



活用した支援策や資金調達方法

- 取組の最初については、別団体を設立し、農林水産省の「食と地域の交流促進対策交付金」を2年間活用し、10のコースを作った。
- 町商工会においても、コースを活用したイベントや現在でも使用している美里フットパスのロゴおよび商品開発など、経

- 経済産業省の「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」の採択を受け、2年間の活動を行った。
- 両プロジェクトの終了後、多様な資金調達方法により自立運営を行っている。

外国人観光客への対応

平成29年度より熊本県との共同により、インバウンド向けのホームページの作成やモニターイベントの開催を行いながら、最終的には英語版のフットパスマップを整備する予定。

今後の展望

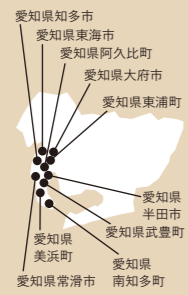
熊本県内各地でフットパスが始まっているので、それらの主体を連携させ、フットパスの活動を県内に定着させる。この熊本モデルを九州、全国へ広げ、日本に歩く文化の定着を図る。全国モデルとなるように、美里フットパスのブラッシュアップを図り、より地域と連携した活動に広げる。

産業観光

実施主体

知多半島5市5町の行政、観光協会、
商工会議所・商工会、観光関連事業者

知多半島観光圏協議会
愛知県半田市東洋町一丁目八番地
(アイブラザ半田一階)
TEL : 0569-47-8588
URL : <http://tabichita.com/>



半田赤レンガ建物(半田市)

日本一元気な半島「知多半島」 広域観光推進プロジェクト

広域観光周遊ルートの世界水準への改善

ポイント

- 空港・鉄道・道路事業者とともに、官民が連携した観光振興による地域活性化の展開
- 地域・業種間の連携を図り、コンテンツを結びつけることで、広域での産業観光を展開

取組の概要

知多半島は、古くから醸造業を始め、六古窯として日本遺産に認定された常滑焼、知多木綿など「ものづくり」の地として栄えてきた。温暖な気候に恵まれ、水産業や農業も盛んである。中部国際空港を有し、名古屋駅からJR・名鉄線が乗り入れ、さらに全国初の有料道路民営化路線である知多半島道路、南知多道路、セントレアラインが半島の動脈とし

て走っている。これらの空港会社、鉄道事業者、道路管理・運営会社とともに官民が連携し、ホームページ等での情報発信、テーマ別に魅力を伝える冊子・コンテンツの開発、物産展の開催等といった事業を実施することで、観光振興による地域活性化に取り組んでいる。

課題とマネジメント体制

“知多は一つ”を合言葉に、様々な分野で広域的な連携が進められてきた。観光分野においては、平成21年に知多半島観光圏協議会が発足し、広域観光事業に着手したが、本格的な取組が始まって間もないことから、各市町における観光施策や観光資源が有機的に連携できているとは必ずしも言えない状

況であった。このため、平成26年度には広域関連事業を専門に進める組織として「広域観光推進事業 事業推進事務所」を新たに立ち上げ、組織強化を図っている。また、交通事業者と連携を図ることで、広域観光事業を進める中でのコンセンサスがとりやすくなり、効果的な事業の遂行が図られている。



半田運河(半田市)



常滑やきもの散歩道
土管坂(常滑市)



岡田の古い街並み
(知多市)



醸造伝承館
(武豊町)

成功要因

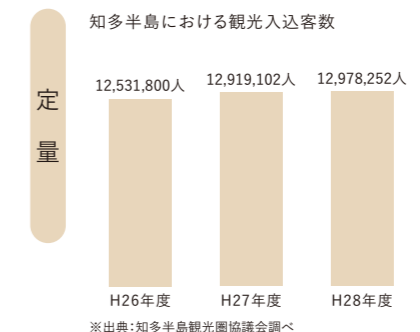
知多半島の5市5町は一つの圏域として古くから一体感を持っており、知多半島に多様に広がる産業観光のコンテンツを地道に結び付けてきた。このため産業観光の理想的なモデルが形成されているほか、地域に根ざした産業資源を有効活用し、地域間・業種間の連携を図り、広域で産業観光を展開できている。これらが評価され、平成27年度に「第9回産業観光まちづくり大賞」で金賞を受賞。圏域内の広域観光に対する機運がさらに高まるとともに、全国に知多半島を周知させる良い機会となっている。

取組の成果

知多半島の観光入込客数は増加しており、本地域の立地や観光資源からみても、まだまだ観光分野における潜在的な伸びしろは大きい地域と言える。平成30年、JRグループの協力による愛知大型観光キャンペーン、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2027年リニア中央新幹線の開通など、観光客の動向が大きく変革することが予測される中、知多半島への誘客を促進するため、広域による連携を一層深め、知多半島特有の魅力を発信していく。

失敗談とその対応

これまでの取組は、各市町の観光情報を集約したリーフレットやホームページの作成など情報発信が中心であった。今後は圏域内に点在する観光資源の連携や、知多半島のブランド化、受入環境の整備などを推進し、5市5町における観光施設や商業施設での連携、地域活性化が実感できるようにする必要がある。平成29年度末からは新たに知多半島を舞台にスマートフォンで楽しむスタンプラリーアプリ「ちたんぶ」を開始。観光各所や公共施設、地域で愛される店舗など、魅力あるスポットへの回遊や地域での消費につなげている。



活用した支援策や資金調達方法

- 地方創生推進交付金
- 愛知県観光施設等補助金

外国人観光客への対応

増加の見込まれるインバウンドに対応するため、中部国際空港(株)と連携し、モデルプランの提示やFIT(外国個人旅行者)向けの商品開発を促す。また、観光パンフレットの多言語化やホームページの多言語対応も行う。

今後の展望

誘客を促進するため、広域による連携を一層深めて知多半島特有の魅力を発信していくとともに、観光施設や飲食店を回遊(周遊)する具体的な仕組みを構築することで、地域の活性化につなげていく。また、知多半島観光圏協議会自らが自主財源を確保していくことが重要であるため、将来のDMO設立を視野に入れた事業展開や取組を進める。さらに、誘客を促進し、5市5町それぞれの賑わいを創出することで、地場産業や飲食店など商業の活性化、雇用促進につなげ、人口減少や地域経済の縮小に歯止めをかけることを目指す。

産業観光

実施主体

四日市市、四日市観光協会、
四日市商工会議所、四日市港管理組合、
㈱第一観光(クルーズ運航)

四日市観光協会
三重県四日市市安島一、一五十六
TEL : 059-357-0382
URL : <http://kanako-yokkaichi.com/>

三重県四日市市



四日市港ポートビル展望室「うみてらす14」から見た工場夜景

工場夜景を生かした 観光地域づくり

広域観光周遊ルートの世界水準への改善

ポイント

- 全国の産業都市自治体と連携した工場夜景観光の発展の取組
- 旅行会社や交通事業者と連携した工場夜景を楽しむクルーズ船などのツアー造成
- 🚩 工場夜景と環境学習や産業史跡などの産業観光を組み合わせたコンテンツを提案

取組の概要

四日市市には昭和30年代に日本で初めて形成された石油化学コンビナートがあり、夜間は幻想的な工場夜景が楽しめる。工場夜景を多くの方に楽しんでいただくため、四日市港ポートビルの展望室や夜景クルーズ船など、様々な観賞方法を整備している。また、公害を乗り越えてきた歴史な

ど、四日市市ならではの環境学習、産業観光とも組み合わせたコンテンツを展開し、観光地域づくりを推進している。また、平成23年には室蘭市、川崎市、北九州市と共に全国工場夜景サミットを開催するなど、全国で連携して工場夜景観光の発展に取り組んでいる。

課題とマネジメント体制

産業都市である四日市市では、近年まで「観光」について深く取り組んでこなかったが、昨今の少子高齢化や産業のグローバル化を受け、「産業+観光」の両輪でまちづくりを進めていくため、工場夜景観光に取り組むようになった。四日市観光協会内に設けられた「産業観光PR部会」を中

心に、夜景クルーズなど様々な産業観光の取組を実施してきたが、予算・人員ともに十分ではなく、観光協会の組織体制の見直しや人材育成が今後の課題である。クルーズ船については、部会内の民間旅行事業者が運航している。



鈴鹿川河口から見た工場夜景



工場夜景とクルーズ船



第8回全国工場夜景サミット四日市

成功要因

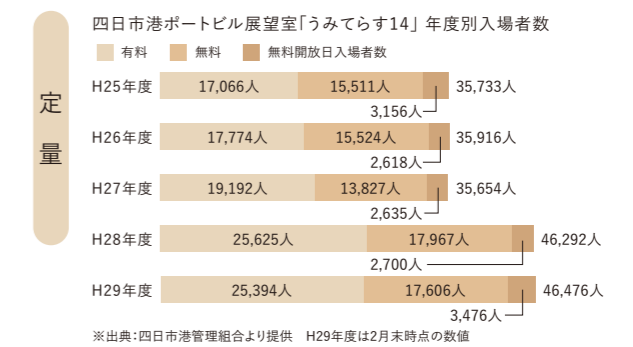
市内だけでなく県外の工場夜景都市と密に連携し、「工場夜景」というカテゴリーの強化に継続して取り組んだこと、マスコミ戦略を綿密に練り、県外から人気に火をつける努力をしたことで、工場夜景観賞という文化が浸透した。また、コンビナート企業から協力を得るとともに、官(市役所、港組合)と、民(市内旅行事業者、コンビナート企業)の役割分担を明確化し、官民の間で観光協会、商工会議所がうまく立ち回ることができた。さらに、市の環境部の協力もあり、公害と環境学習の要素も加えられたこと、語り部(ガイド)の擁立を当初より重要視してきたことも挙げられる。

取組の成果

平成23年2月、北海道室蘭市、神奈川県川崎市、福岡県北九州市とともに、「第1回全国工場夜景サミットin川崎」にて「日本四大工場夜景」共同宣言を行った。その後も工場夜景観光の発展に向けて全国の自治体と連携し、平成29年には、連携都市は10都市まで拡大している。また、コンビナートから排出されるガスが引き起こした四日市ぜんそくと環境改善の取組について学べる「四日市公害と環境未来館」は、伊勢志摩サミットに先立って行われた「2016年ジュニア・サミットin三重」の視察先になるなど、国内外の教育旅行の目的地にもなっている。

失敗談とその対応

マスコミへのPRは、放送圏が東海地方だけということもあり、ツアー客は日帰りのお客が多かった。宿泊の期待できる関西圏へのPRが課題だったが、近畿日本鉄道とコラボしてクルーズ商品を販売することで、関西方面の近鉄沿線に情報発信ができ、奈良や京都、大阪方面からのお客が増えて宿泊にもつながった。



活用した支援策や資金調達方法

- 国の緊急雇用創出事業を活用

外国人観光客への対応

「四日市公害と環境未来館」では、展示や映像において英語、中国語などの多言語対応を実施している。

今後の展望

クルーズ事業については、引き続き民間事業者に依頼したいと考えている。現状は事業者数社のみだが、他の事業者にも積極的に事業に参加頂けるよう取り組みたい。さらに、今後も工場夜景観賞という文化が浸透するよう継続してPRしていきたい。

インフラ ツーリズム

実施主体

西和賀町、西和賀町観光協会、西和賀産業公社、
西和賀淡水漁協、西和賀町森林組合、西和賀町教育委員会、
岩手県企業局、岩手県スポーツ振興事業団、東北自然エネルギー

北上川ダム統合管理事務所湯田ダム管理支所
岩手県和賀郡西和賀町杉名畑四十四地割一六二番十五
TEL : 0197-74-2011
URL : http://www.thr.mlit.go.jp/kitakato/101event/yyu_event.html

岩手県西和賀町



虹が架かる迫力満点の放流(ダム版アカデミー賞:日本ダムアワードで放流賞受賞)

ポイント

- 虹が架かる迫力満点のダム放流と、地域観光施設との連携によるダムカード特典のコラボ
- 船による湖上体験や、流木活用による薪割り体験、流木に生息するカブトムシ採取会を実施
- 貯砂ダム内通路“水のカーテン”の一般開放・歩行体験(夏期)と、七色のライトアップ

「湯田ダム(錦秋湖)」を 活用した地域活性化

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

取組の概要

湯田ダムの「非常用洪水吐き」の点検放流を、地域の観光資源として活用している。虹が架かる迫力満点のダム放流と、地域の観光施設との連携を強化し、ダムカード提示による特典を設定した。また、貯砂ダム内にある人工の滝“水のカーテン”を「錦秋湖大滝」と命名した。全国でも珍しく裏側を通り抜けることができるこの滝は、平成26年から幻想的な七

色のライトアップが実施され、さらに人気のスポットになった。船による湖上体験など「地域連携フェスティバル」と組み合わせることで、西和賀町の豊かな自然や特産品の魅力を満喫できるイベントも実施している。その他、女性や子供に人気の「流木薪割り体験」や、特に子供に人気がある流木に棲む「カブトムシの幼虫採取会」のイベントも実施している。

課題とマネジメント体制

湯田ダム水源地域の西和賀町は、ダム建設当時、国内最大規模の移転(約3,200人規模)が伴った。町の振興計画では、ダム完成後の町の発展を有畜農業と観光に求めようとするものであったが、ダム完成後50年間で人口が約7割も減少し、過疎化(平成30年2月時点の人口5,807人)と高齢化が進んでいる。こうした背景の中で、湯田ダム(錦秋湖)

を最大限に生かしながら、豊かな自然と温泉、町の特産品を組み合わせ、「町の魅力の発信や集客を図る」取組がスタートした。湯田ダム管理支所・西和賀町・同観光協会・同産業公社を中心に、多くの町関係機関が連携しながら、地域資源を生かした地域活性化イベントを実施している。



ダムカード特典事例
(道の駅錦秋湖で
ダムカレー割引)

流木の朽木に
生息する
カブトムシ採取会

成功要因

全国初となる「貯砂ダムカード」の発行、ダムカード提示による町観光施設の割引などの、優遇措置の実施、西和賀淡水漁業協同組合協力による釣り体験、湯田ダム産天然クワガタ抽選会、町教育委員会協力による船での湖上体験など、多彩な「地域連携フェスティバル」を併催した結果、来場者は2,400人超、連携施設の売上は50%増となった。「連携」「工夫」「行動」が重要なポイントとなり、来場者の96%が満足と感じるイベントを開催できた。

取組の成果

全国初の貯砂ダムカードは、反響が大きく、イベント期間2日間だけで2,200枚以上を配布した。その後も人気は続き、西和賀町観光案内所における案内の機会が約2倍増となっている。また、全国有数の迫力あるスキージャンプ式の放流や、全国でも珍しい滝の中の通行ができる貯砂ダム、天然のカブトムシが生息する流木など普段見られない景色や魅力的なイベントを組み合わせ、多くの関係機関と連携してパブリシティを展開した結果、数多くのメディアに取り上げられ、豊かな自然や温泉、特産品とともに、西和賀町の魅力を広くPRすることに成功している。

失敗談とその対応

春の放流イベントでの「ダム堤体内見学会」は最も人気がある一方、人気があり過ぎて行列ができてしまい、「見学を待つのが大変」「見学できなくて残念」などクレームもあった。そこで、行列の解決策として事前受付制にするとともに、事前受付に移行しても集客力が落ちないよう、アンケートで要望が多かった「放流を下から見られるような新たな見学ルート」を追加し、見学者の満足度向上に寄与できるように対応している。

関連事例

豊平峡ダムを活用した地域活性化

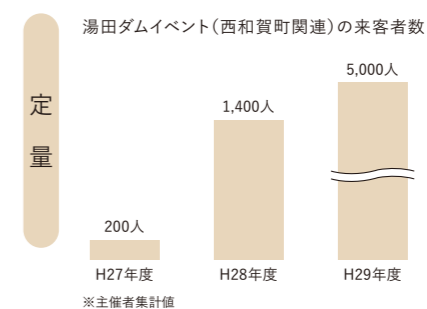
実施主体 | 北海道開発局札幌開発建設部 豊平川ダム統合管理事務所 豊平峡ダム管理支所、札幌市、定山溪観光協会、(株)札幌リゾート開発公社

取組の概要

豊平峡ダムは、札幌市都心部から南に約30kmの定山溪地区に位置し、支笏洞爺国立公園の緑豊かな渓谷がある北海道を代表する温泉地「定山溪温泉」に隣接したダムである。毎年6月～10月の期間、ダム下流の渓谷と深山の風光明媚な景観維持を目的に、昭和48年から道内で唯一「観光放流」を実施しており、期間中は多くの観光客が訪れている。見学ツアー等では、放流口を目の前にして放流状況を見ることが出来る。また、ダム管理者と民間事業者とが連携し、ワイン・日本茶葉等をダム建設時の作業用トンネルに貯蔵する実験を行い、その貯蔵効果の確認を行っている。実験はマスコミにも注目され、ダム下流に位置する定山溪温泉街等への持続的な地域活性化に繋がることを期待している。

成功要因

豊平峡ダムは、道内で唯一の観光放流を行っていることに加え、普段見ることのできない施設内部を見学するインフラツーリズムや、近年のダムブームによるメディアへの露出の増加などにより、地域活性化に繋がっている。また、貯蔵実験により、新たな付加価値の付いた熟成ワインや熟成茶が地域限定の商品となることで、今後は地域の知名度向上が図られ更なる地域活性化に繋がると期待している。



豊平峡ダム全景(下流より)



ソムリエによるワイン官能試験



貯蔵されたワイン

インフラ ツーリズム

実施主体

三条市、只見町、只見町観光まちづくり協会、
新潟県三条地域振興局、福島県南会津建設事務所、
北陸地方整備局長岡国道事務所

三条市経済部営業戦略室
新潟県三条市旭町二丁目一
TEL: 0256-34-5605
URL: <http://www.city.sanjo.niigata.jp/eigy/page00135.html>

新潟県三条市



人気の紅葉シーズン

秘境八十里越体感バス ～普段入れない工事現場を 観光資源に～

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

ポイント

- 国、新潟県、福島県で構成する懇談会を設立し、八十里越の工事現場見学を実施
- しただ郷・只見の豊かな自然、歴史、文化の活用
- ▶ 工事現場の活用による非日常の特別感・満足感を観光資源として展開
- ▶ 市民ガイドの活用や民間施設等との連携による周遊性の向上

取組の概要

三条市は、上越新幹線の燕三条駅や北陸自動車道の三条燕インターチェンジ、国道8号、289号等の交通網が整備されており、産業・交通の要衝となっているが、このうち、国道289号の福島県境区間は「八十里越」と呼ばれ、現在は通行不能区間となっており、一日も早い全線開通が望ま

れている。その「国道289号八十里越」の工事見学を通じ、事業の効果・必要性を感じてもらうとともに、今まで比較的閉ざされた場であった工事現場を活用し、非日常の特別感・満足感を観光資源に結び付けることで、交流人口の拡大を図っている。

課題とマネジメント体制

平成元年から工事が行われている八十里越の県境トンネルが平成22年度に貫通したことにより、限定的ではあるが両県の往来が可能となった事を契機に、平成24年度に三条市と只見町の行政、商工会、観光協会等、国及び新潟・福島県で構成する「八十里越道路暫定的活用検討懇談会」が設立された。当市においても、八十里越の工事現場等を地

域の観光資源として活用し、早期開通に向けての気運を高めるため、「秘境八十里越体感バス」をスタートした。運営については、三条市が事業企画を行い、旅行企画・実施を旅行社に委託する形で行っており、長岡国道事務所をはじめ、新潟県や福島県から、バスの先導や工事現場説明等について協力をいただいている。



5号橋梁付近
見学の様子



只見町河井継之助
記念館見学の様子



集合場所の道の駅
漢学の里しただ



八十里越古道
トレッキングの様子

成功要因

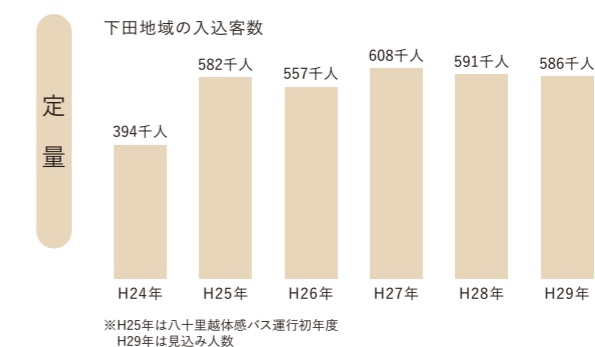
普段は入ることができない、今しか見ることができない、貴重な体験ができる「コト」を観光資源として活用し、「特別」を体感できるよう「見せて・伝える」取組を行っていることが挙げられる。また、工事見学に加え、歴史の道である八十里越の歴史ロマンも体感できるよう、市民ガイドがバスの中で八十里越の自然や歴史等について説明を行っており、参加者から好評である。ガイドなど地域住民との連携を図っているだけでなく、下田地域の日帰り温泉施設や飲食店など9施設と連携し、参加者限定の特別割引券を配付することで周遊性を持たせるなど、下田地域の活性化を図っている。

取組の成果

三条市の下田地域の入込客数は、体感バスの運行が始まった平成25年度から5年間で延べ290万人を超え、集合場所となっている道の駅は、5年間で延べ87万人を超えており、平成27年度から配付している参加者限定の特別割引券は年間、約900人が利用している。体感バスの運行は、交流人口を拡大させ、下田地域の入込客数や各施設の売上増への波及につながっている。また、NHK、テレビ朝日、TBS等、全国区のテレビ番組で取り上げられたほか、平成27年度に第9回産業観光まちづくり大賞の観光庁長官賞を受賞するなど全国的に知名度を上げた。

失敗談とその対応

年を経る毎に、選り好みされ、紅葉の時期に参加者が集中し、夏場の参加率が25%まで落ち込んだ。そのため、平成28年度は、8月、9月に八十里越を通り抜け、福島県只見町、檜枝岐村に宿泊する便を新たに運行した。八十里越の効果、利便性をより実感でき、只見町の歴史や自然、食などの魅力を体感できる宿泊便は大好評で、参加率は97%と大幅に増加した。特に、全国的に知名度があり人気のある檜枝岐歌舞伎を鑑賞するコースは、定員に対し約3倍の申込みがあった。



活用した支援策や資金調達方法

- 地方創生推進交付金
- 地方創生加速化交付金
- 新潟県魅力ある観光地づくり支援事業補助金

今後の展望

企業のみならず、自治体さえもが消滅しうると言われる昨今、あらゆる角度からアプローチし、地域の魅力を発信し続けることが必要であることは、意識として共有されてきている。一方で、産業、経済、文化及び観光において新たな交流促進をさせるためにもインフラ整備を産業観光に結びつけることが重要である。八十里越を三条市の一観光資源とするため、下田地域の

豊かな自然などの地域資源を生かした様々なイベントや体感プログラムを企画・実施することで観光客の満足度を向上させ、交流人口の拡大を図っていくとともに、下田地域の温泉施設や飲食店などの各施設と連携し、地域経済の活性化につながる取組を進めていきたい。

インフラ ツーリズム

実施主体

足利市役所 上下水道部 下水道課

足利市役所 上下水道部 下水道課 庶務・普及担当
 栃木県足利市本城三丁目二二四番地
 TEL: 0284-20-2176
 URL: gesuidou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県足利市



史跡足利学校のデザインマンホール蓋(下水道課職員)

ポイント

- 観光資源として、マンホールの活用
- 国、自治体、企業等といった官民連携による取組の推進
- 観光部局・教育委員会と連携した観光誘客及びまちなか回遊を意識したPR・取組の実施

マンホールカード 史跡足利学校の魅力を 高めるマンホール

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

取組の概要

日本遺産の史跡足利学校や国宝の饗阿寺を有する地区は、市民と行政の協働により、周辺の整備など歴史的地区に相応しい良好な都市景観の形成が図られてきた。平成28年8月には、史跡周辺に設置されていたデザインマンホール蓋に着目。下水道広報プラットフォーム(略称:GKP)が企画しているマンホールカードの作成を行い、観光部局や教育委員会と連携して配布を始めたところ、大きな反響

があり、公共下水道PRとともに観光誘客にも効果があった。また、ご当地グルメなどもネタにしたクロスワードパズルを掲載したマンホールマップを配布したことで、まちなか回遊を促進し、にぎわい創出の一助となった。平成29年1月には新しいデザインのマンホール蓋を史跡足利学校内に設置。マンホールを新たな観光資源として捉え、様々な取組を推進している。

課題とマネジメント体制

足利市では日本遺産の史跡足利学校等、観光資源はあるものの、中心市街地活性化や、観光客等の回遊が課題となっていた。また、中心市街地は足利市内で最も早く公共下水道の整備を始めた地区で、マンホール蓋の老朽化による更新など維持管理が課題となっていた。そこで、以前史跡足利学校で施

設管理を担当していた職員が下水道課へ異動となったことを契機に、史跡内に話題づくりと参観のポイントとなるようなデザインのマンホール蓋を新たに作ることを提案。下水道課内で国指定史跡に相応しいデザインを検討することになり、観光部局の協力を得てマンホールカードの配布を行った。



足利市の
マンホールカード



史跡足利学校参観
(観光案内人から
説明を受ける参観者)



史跡足利学校参観
(足利銘仙を着た
女性たちの足元には
マンホール蓋)



マンホールマップと
クイズ

成功要因

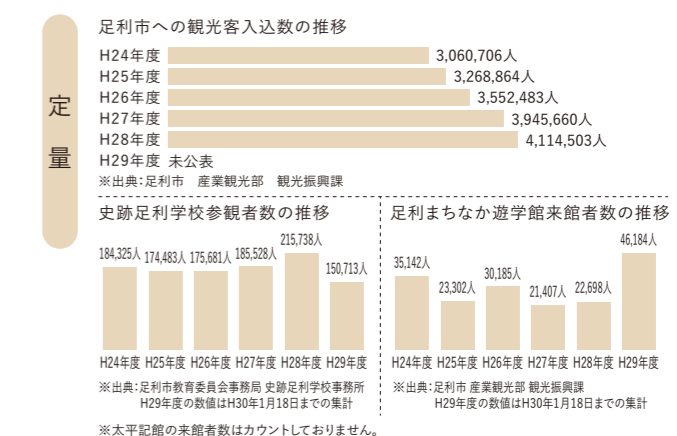
GKPの積極的な広報によって、テレビや新聞、雑誌などでマンホールカードが取り上げられ、全国的に人気が高まっている。また、新しいデザインマンホールの設置を受験シーズンと重ねたことで、合格や学業成就を願うカードを受け取った観光客がSNSで発信・拡散し、更なる誘客に寄与している。また、観光部局や教育委員会等による協力を得られたことで、史跡足利学校参観料割引サービスの実施や、新たに史跡足利学校をイメージするデザイン蓋を作製するにあたり、史跡と調和した色彩デザインにすることができるなど、観光地としての魅力向上に繋がった。

取組の成果

定 性
 地元の商業会が自主的にマンホールカードを紹介することで、新たな観光資源としての認知度が向上。マンホールカード目当てに太平記館や足利まちなか遊学館へ来館される人を一定数見込むことができるようになり、観光案内所や売店等の利用者も増加傾向である。近年、マンホールカード収集を目的とする日帰り観光バスツアーも開催されている。その他にも、マンホールカードをきっかけとして、太平記館に初めて来館したという市民も多く、施設を知ってもらう良い機会になった。

失敗談とその対応

マンホールマップがわかりにくいという意見があったため、読みやすくなるように掲載内容の改善と充実を図っている。マンホールカードの人気の高まりとともに配布枚数が伸びたが、予算の都合で増刷対応ができず、秋の観光シーズンなどで止む無く配布を休止することとなった。予算の確保と観光シーズンに合わせた増刷に努めたい。



活用した支援策や資金調達方法

- 下水道広報プラットフォームのホームページ (<http://www.gk-p.jp/mhcard.html>)
- 国土交通省のホームページにおいて、足利市の新しいマンホール蓋を紹介「マンホールで受験生を応援します!!」 (http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo_sewerage_tk_000535.html)

外国人観光客への対応

足利市観光協会の観光案内所は、英語と中国語に対応。観光パンフレットは、4ヶ国語(英語、中国語、タイ語、韓国語)を作成し、英語が堪能な市民ボランティアの観光案内人が対応している。また、史跡足利学校では4ヶ国語(英語、フランス語、中国語、韓国語)のパンフレットを作成し、多言語音声ガイドアプリ(日本語、英語、中国語、韓国語)を無料配信している。

今後の展望

足利市の下水道は整備に着手してから50年が経過し、業務の中心は建設から維持管理へとシフトしている。今後は下水道の接続率を向上させるとともに、正しく安全で快適に使ってもらえるよう啓発していくことが重要であり、そのためにも観光部局や教育委員会と協力しながらマンホールカードを今後も継続、活用していきたい。下水道の大切さを理解してもらうためには息の長い広報が必要であり、今後も様々な取組を推進していく。

インフラ ツーリズム

実施主体

国土交通省ハッ場ダム工事事務所、
長野原町、東吾妻町

国土交通省ハッ場ダム工事事務所地域振興課
群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋十一
TEL: 0279-82-2317
URL: http://www.ktr.mlit.go.jp/yanba/yanba_index059.html



工事現場(ダム上部より)

建設中のダム現場見学を 活用した地域振興。 その名も“やんばツアーズ”

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

ポイント

首都圏で唯一の大規模ダム建設現場の観光資源化・「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」をコンセプトにした工事中の現場開放によるリピーターの獲得

- 地域住民の協力や応援による地元との連携

取組の概要

ハッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアーズ」と銘打ち、“いまだけ”“ここだけ”“あなただけ”をキャッチフレーズに、ダム本体建設工事を間近で見学できる見学会を、平成29年4月から実施している。見学者はヘルメットを着用し、工事現場内を進み、ダム工事現場の迫力を間近で体感できる。ほぼ年中無休でダム見学会を実施したことにより、ダム見学を目的に訪れた方

が地域内の観光や休憩を行うなど、地域の魅力を感じていただく機会を創出し地域振興に大きく寄与した。ダム工事の案内だけでなく、地域の魅力も紹介するガイド「やんばコンシェルジュ」に地元在住の方を任命、起用したことにより、地元雇用が創出されたとともに、地元の若者がコンシェルジュに名乗りするなど、将来に向けた芽が地元で育ち始めた。

課題とマネジメント体制

ハッ場ダムの建設場所は、草津温泉から車で約30分、軽井沢、浅間山や伊香保温泉からも約1時間の位置にあり、周辺に訪れている多くの観光客に、どのようにハッ場ダムまで足を伸ばしてもらおうか、また逆に、ハッ場ダムに来た観光客に、周辺観光地へ足を伸ばしてもらおうかが課題だった。草津温泉などへの団体バス旅行、個人旅行(少人数での車、電車旅行)をターゲット

とし、見学者や時期に応じてそれぞれ5本ずつ、計10本の目的別見学プラン「やんばツアーズ」を実施している。更に、観光客への接点が多い草津温泉の女将さんへ協力を要請し、連携を強化している。また観光の専門家となっている跡見学園女子大学の教員に指導を仰いでいる。さらにそこで観光を学んでいる学生へやんばコンシェルジュの協力を要請している。



ハッ場ダム観光
プロジェクト
やんばツアーズ



コンシェルジュによる
現場案内



目的別10本の
プログラム一例



工事現場
(ダム下部より)

成功要因

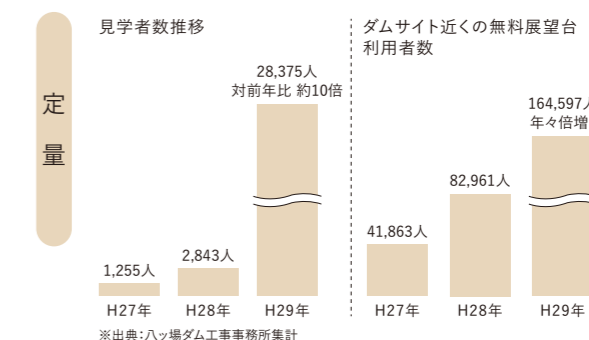
首都圏で大規模ダム本体建設工事を実施しているのは、現在ハッ場ダムだけである。この条件を最大限に生かし、ダム本体建設工事を地域の観光資源と捉えたことや、旅行会社の団体ツアーや個人旅行などでダム見学ができるように受入体制を整えたり、地域住民等の協力・応援といった地元との連携があったことで集客に繋がった。集客が落ちこむ冬場にそのときしか見られない冬季の名物を開発しダム見学をセットにするなど、地元と連携を行いつつ目的別に10本の見学プランを用意した。また、ダム工事中のツアーであるため工事現場の様子は日々変わっており、リピーターの獲得につながっている。「完成後にもまた来たい」との声も多数いただいております、地域の観光資源のひとつとして地域と連携していきたい。

取組の成果

やんばツアーズ開始前に報道機関向けの現場見学会を開催し、やんばツアーズの説明とやんばコンシェルジュの案内でダム本体建設現場をご案内した。ツアーズ開始後も、報道機関向けの現場見学会を行ったり、期間限定の見学会について記者発表を行ったりして広報に努めた。その様子は主に群馬県内のテレビや新聞で取り上げられ、多くの方に来訪いただき、地域の振興に寄与した。

失敗談とその対応

見学申込みの人数が予想を上回り、申込みを多数断る状況となった。このため、予約不要で短時間見学できる見学会(繁忙期に期間限定)を設定し、多数の見学者を受け入れることができた。



外国人観光客への対応

「10本の見学プラン」における、団体向け現場見学会として設定した5本のプランの1つに「訪日外国人向けYanba Inbound ツアー」を設定した。

今後の展望

平成29年度は、冬期を除きほぼ毎日、予約が一杯の状況であった。ハッ場ダムは2019年度の事業完了を目指しており、ダム本体建設工事の見学ができるのも限られた時間しかない。より多くの人に“今だけ”“ここだけ”“あなただけ”のハッ場ダムの見学に訪れてもらえるよう、受入体制の拡充や新しい工事見学会を検討する等の取り組みを進めていくとともに、より一層、地域振興に寄与するべく、前例にとられないことなく、この地域にふさわしい形で取り組んでいきたい。また、将来の地域活性化のための仕組み作りを、住民及び関係者と協力して検討していく。具体的には、ジオパークを関連させたダム見学等も検討している。

インフラ ツーリズム

実施主体

秩父4ダム連携検討会
国土交通省関東地方整備局二瀬ダム管理所
埼玉県秩父県土整備事務所合角ダム管理所
独立行政法人 水資源機構荒川ダム総合管理所

独立行政法人 水資源機構荒川ダム総合管理所
埼玉県秩父市荒川久那四〇四一
TEL : 0494-23-1431
URL : <http://www.water.go.jp/kanto/arakawa/index.html>



秩父4ダム探検隊が往く! ツアー(浦山ダム)

ポイント

- ▶ ダムツアーと地場産センターや道の駅等地域資源との連携
- 地域活性化のためインフラ管理者の垣根を越えた連携体制の構築

秩父4ダム探検隊が往く! ツアー

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

取組の概要

埼玉県秩父地域は、荒川・隅田川の水源地域であり、国土交通省が管理する二瀬(ふたせ)ダム、埼玉県が管理する合角(かっかく)ダム及び水資源機構が管理する浦山ダム、滝沢ダムと、4つの多目的ダムが所在している。4ダムは、水道用水、かんがい用水等に必要の水を東京都や埼玉県に供給しつつ、下流地域に暮らす人々を洪水から守るという役割を果たしており、地域における重要な水のインフラであ

る。そこで、4ダムについて広く一般の理解を深めてもらうことを目的として、「秩父4ダム探検隊が往く! ツアー」を実施している。秩父4ダムに加え地場産センターや道の駅等を巡ることで、昼食にはダムカレーが食べられ、秩父の玄関駅となる西武秩父駅や道の駅では、地元(秩父)の特産品と出会うことができるなど、秩父の自然、文化といった地域資源に触れ、水について考えてもらう機会としている。

課題とマネジメント体制

埼玉県秩父地域は、「秩父多摩甲斐国立公園」や長瀬渓谷のライン下り、平成28年12月にユネスコの無形文化遺産に登録された「秩父夜祭」等、観光資源に恵まれるとともに、東京都心からも近いことから、毎年多数の観光客が訪れている。一方、地域産業(石灰岩採掘・セメント製造等)の縮小、山林管理者の高齢化、若者の転出超過、少子高齢化等

による急速な人口減少等、全国の水源地域に共通する課題も抱えている。4ダムは管理者が異なるため、これまでがダムごとに水源地域活性化、施設の役割の理解促進、上下流交流などに取り組んできたが、地域の課題を解決するべく「秩父4ダム連携検討会議」を設置。協働し、情報を共有しながら、地域活性化等に資する様々な取組を推進している。



模型を使ってダムの役割を説明する
国土交通省の職員



合角ダムでは
ご当地ゆるキャラ
「りゅうごん」
「ポテくまくん」と
記念撮影



普段は立入制限している区域
(ゲート設備)へと
ご案内



昼食は徐々に人気に
火がついてきた
ダムカレー

成功要因

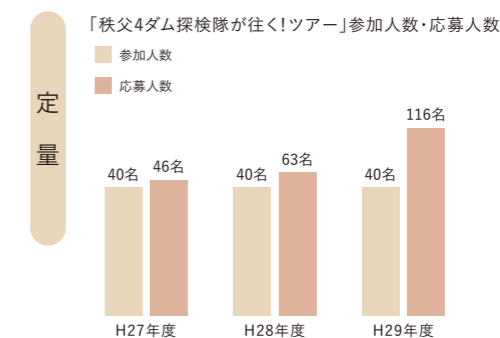
4ダムの管理者である国土交通省、埼玉県、独立行政法人水資源機構が、地域活性化など全国の水源地域に共通する課題に対し、一層取組を深化する必要があるという方向で認識を共有し、近隣の4ダムで相互に連携する体制を構築できたことが挙げられる。

失敗談とその対応

平成26年度に初めて企画し、参加者を募ったものの、PRの範囲が狭かったこと、季節はずれの台風があったこと等から、応募数が少なくツアー催行中止となった。この反省を踏まえ、平成27年度以降は、対象を荒川流域全体を視野に入れ、埼玉県の広報誌「彩の国だより」等を用いて参加者を募集。また、FM「ナック5」等を活用してツアー商品をPRしたこと、実施時期を夏休みに変更したことが功を奏して定員を上回る応募となり、年々応募人数が増加している。

取組の成果

アンケートの結果、参加者からは、「またダムのある地域を訪れたい」、「ダムの役割が分かった」、「水の大切さが理解できた」という評価があり、活動の目的である水源地域の活性化につながるものと評価している。「秩父4ダム探検隊が往く! ツアー」は、夏休みの親子連れを対象として、平成27年度から毎年度1回実施し、平成29年度で3回目を数えた。毎年応募定員を40名に設定しているが、申込数が年々増加し定員を大幅に上回るため抽選となっている。



活用した支援策や資金調達方法

- (一社) 関東地域づくり協会助成金の活用

今後の展望

人口が減少傾向にある秩父地域にとって、来訪人口を増やすことで地域活性化につながる事が期待されている。このため、4ダムが豊富な地域資源の一つとして認知され、4ダムの役割等が正しく理解されるよう、継続的に取り組む必要があると考

えており、「上下流交流会」をはじめ、「第4次産業革命、流域連携の在り方、水の駅づくり等」などをテーマに多くの講演会や勉強会を実施している。

インフラ ツーリズム

実施主体

一般社団法人 小谷村観光連盟

一般社団法人 小谷村観光連盟
長野県北安曇郡小谷村中小谷丙 1-1-1
TEL: 0261-82-2233

長野県小谷村



石坂 浦川スーパー暗渠砂防堰堤

ドボクアート砂防堰堤めぐり バスツアー

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

ポイント

- 砂防施設を新たな観光資源として活用
- 過去から土砂災害に見舞われ、様々な砂防堰堤が建設されてきた小谷村だからこそできる企画

取組の概要

小谷村は、糸魚川静岡構造線上にある急峻な地形で、脆弱な地質条件であるため、これまで何度となく土砂災害に見舞われ、様々な砂防堰堤が建設されてきた。形も円柱形、ジャングルジムのようなもの、ネットを張ったものなどさまざま、工法も多岐に渡っており、大規模でそして美しいその造形は、土砂災害に度々見舞われてきた小谷村だからその観光資源となっている。村内に点在する砂防堰堤のうち、厳選された10種類を

ガイドが案内する「ドボクアートツアー」も開催している。普段は容易に近づけない巨大な砂防堰堤を間近に、様々な種類を1日で観察できるうえ、砂防堰堤までは狭い未舗装の道路箇所もあり、スイッチバックしながら進むなど、スリル満点なこのツアーでしか行けない点がドボクマニア以外にも好評である。砂防カードは砂防事業のPRとして長野県姫川砂防事務所で作成されたものを、バスツアー参加者への特典として配布している。

課題とマネジメント体制

小谷村は長野県の北西に位置し、周囲を国立公園で囲まれた自然豊かな立地にある。豪雪地帯のため冬期はスキー観光が盛んだが、夏場は宿泊を伴う観光はあまり盛んではなかった。自然環境に対応するため作られた様々な砂防堰堤を巡るドボクアートツアーを開催することで、スキー観光のオフシーズンである夏期に着地型観光として砂防堰堤を

商品化することができた。砂防堰堤は観光資源として作られた物ではないため、狭くて舗装されていない作業用道路しか無い箇所も多く、通行が可能となるような道路にするための維持管理が課題であり、草刈りを観光連盟で行ったり、道路等の破損を長野県姫川砂防事務所が補修したりしている。



深原
ワイヤネット式
砂防堰堤



千国
コンクリート
ブロック堰堤



里見
鋼製フレーム構造
堰堤

成功要因

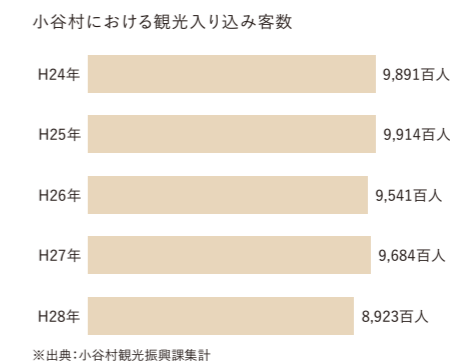
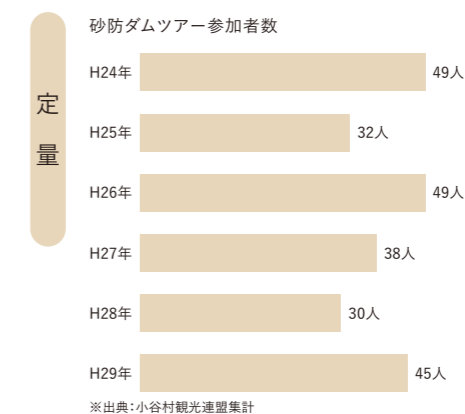
一つの村で様々な形式の砂防堰堤があり、村の中心を流れる姫川を挟んで東西での地形・地質の違いによって堰堤の形式が違うなど学問的なおもしろさがある。県職員のOBであるガイドが建設時の苦労話等を交えて解説するプログラムであり、他の地域には無い素材を、ストーリーをもって説明している。

失敗談とその対応

取り付け道路の草刈、補修等を観光連盟単独で行うこともあったが、未舗装の道を安全に通れる車を地元のホテルが用意したり、県のOBがガイドを行ったりと、村の観光担当部局と国・県の砂防事務所及び民間事業者とでツアーの体制を組んだことで砂防堰堤を観光資源化することができた。

取組の成果

ツアー前後に村内の温泉付きの宿泊施設に宿泊してもらい、地域経済を潤している。通常はあまり人の目に触れることがない様々な形の砂防堰堤を長野県内以外の人々にも見てもらうことで、その機能を理解し、親しみを感じてもらえることができる。



今後の展望

砂防堰堤を山、谷合いの自然の中の村の観光資源として活用するとともに、歴史、生活文化や自然を更に生かした観光事業を行い、県内外にPRして来村客を増やしていきたい。

教育旅行

実施主体

飛鳥ニューツーリズム協議会

飛鳥ニューツーリズム協議会
 奈良県高市郡明日香村島庄五番地
 TEL : 0744-54-1525
 URL : <http://asukacom.jp>



離村式の様子

「飛鳥民家ステイ」による 国内外からの教育旅行等受入

訪日教育旅行の活性化

ポイント

- 飛鳥地域における体験交流プログラムと民家ステイによる教育旅行の推進
 - 国内の教育旅行のみならず、インバウンドの受入に対する取組も実施
- 事前にパーソナルアンケート等を実施し、受入先へ情報共有を行う受入モデルを構築

取組の概要

通過型観光から着地型観光への実現、併せてインバウンドの受入も見据えて、体験交流プログラムと民家ステイによる教育旅行を推進した取組を実施している。住んでいる人々と日常生活を共に体験することで、飛鳥地域の自然・歴史・文化に触れ、古代ロマンを体感することができる。明日香村は国内で唯一、地域全体に古都保存法、明日香法など

の景観規制が適用されている地域であり、100年後も現在の美しい景観が保たれている稀有な場所である。京阪神の都市部からのアクセスもよいことから、近年、国内の小・中学校の修学旅行だけではなく、台湾を中心とした東アジア圏の教育旅行の受入実績も伸びている。

課題とマネジメント体制

地域独特の厳しい景観規制(古都保存法・明日香法)の下、開発等の規制により、宿泊施設等の観光サービス業が根付かず、いわゆる「通過型」の観光地となり、経済効果も少なかった。着地型観光を展開していくために、平成23年5月に明日香村商工会を事務局として、「飛鳥京観光協会」や「奈良県商工会連合会」など地域内外の5団体から構成

される「飛鳥ニューツーリズム協議会」を設立。各種団体と連携を図り、民家ステイや体験プログラムの受入事業者とともに取組を推進している。現在はプロパー職員4名を中心として、明日香村や飛鳥広域行政事務組合から支援を受け、地域への誘客事業に取り組んでいる。



受入家庭での様子



インバウンドも活発に受入



中核人材

吉田 宏

飛鳥ニューツーリズム協議会 会長
 徳星醤油醸造場 代表
 明日香村商工会 会長を務めると共に、飛鳥ニューツーリズム協議会の設立時から会長として地域内外で精力的に活動。

成功要因

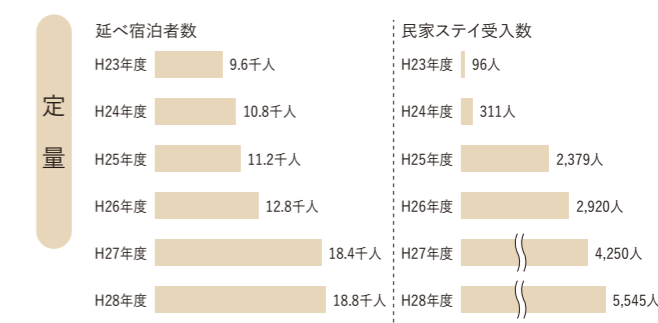
明日香村商工会の会長、青年部長をはじめとする有為の人材が地域活性化の旗印の下「飛鳥民家ステイ事業」に取り組み、どのような案件でも断らず地域内外の官民様々な関係者との連携・協力を構築しながら一つひとつ課題を解決していった結果が現在につながっている。

失敗談とその対応

顧客となる旅行エージェン特との関係づくりには苦労が多かった。特に海外の現地エージェン特との交渉では、言葉の問題はもちろん商習慣や文化の違いから受入家庭に迷惑をかけることもあった。しかし、そのような経験と失敗から、受入前にアンケートを実施し、宗教・アレルギー・既往症等の確認を行うようマニュアル化を徹底した。民家ステイ受入家庭と情報共有を行うと共に、個別相談にも柔軟に対応しながら、受入モデルを構築していった。

取組の成果

教育旅行による交流人口の増加だけでなく、地域の人達が学生や海外の旅行者との交流を通じて地元の価値を再認識する契機となったり、学生と関わることで生きがいを見いだす高齢者が増えるなど、地域にとって良い効果が出てきている。



活用した支援策や資金調達方法

- 子ども農山漁村交流プロジェクト
- 奈良県エリアマネジメント中間支援事業補助金

外国人観光客への対応

事前のパーソナルアンケートにより、宗教・アレルギー・既往症等を確認し、民家ステイ受入家庭と情報共有を行う他、受入家庭向けに定期的に英会話セミナー、中国語セミナー等を開催。また、英語をはじめとした、3か国語対応の外国語版パンフレットの作成や来訪者が多い台湾をターゲットとしたPR動画の作成、村内の史跡を観光ガイドする際に使用する多言語型タブレットを配布した。

今後の展望

平成30年6月15日から施行される住宅宿泊事業法を視野に入れ、FIT(個人旅行者)の受入も展開していきたい。また、現在地域で大きな課題となっている空き家の利活用、質の高い体験プログラム(農業体験等)、及び厳しい規制によって守られてきた美しい原風景などを連携させて、飛鳥地域発の滞在型観光のビジネスモデル確立を目指していきたい。

MICE 誘致の促進

実施主体

(株)広島マツダ
おりづるタワー事務局

(株)広島マツダ
おりづるタワー事務局
広島市中区大手町一丁目
TEL : 082-569-6803
URL : <http://www.orizurutower.jp/>

広島県広島市



展望台からの夜景

ポイント

- 県・市・広島観光コンベンションビューローなどの他の機関と連携し、誘致の間口を拡大
地域^{注目!}の特性を全面に押し出した独自性のある会場の整備

ユニークベニューを活用した MICE 誘致への取組

MICE 誘致の促進

取組の概要

平成28年9月にグランドオープンしたおりづるタワーは、その展望台から原爆ドームを含む広島市の街並、また晴れた日には宮島の弥山という2つの世界遺産を同時に眺めることができる唯一無二の場所である。原爆ドーム横という立地を生かしたユニークベニューを開発し、MICE 誘致に向けて取り組んでいる。MICE 誘致にあたっては、設備や什

器などのハードを都度見直すとともに、継続的に広島産の食材を使ったメニュー開発等を行い、クライアントの要望に柔軟に対応している。その他にも、美しい景色を眺めることができる展望台を生かし、パーティースペースとしての開放や、折り鶴ワークショップといったオリジナルの体験コンテンツを組み込むなど、独自の提案を行っている。

課題とマネジメント体制

おりづるタワーがオープンするまでは、「広島らしさ」を分かりやすく押し出せる会場があまりなかったことから、海外や県外からの MICE 誘致にあたっては、この場所で開催する意味を感じてもらえる機会が少なかった。おりづるタワーの運営開始後は、地域特性を前面に押し出した MICE 誘致が可能となったが、単独では誘致すること

が難しいため、県や市の MICE 戦略担当が情報等を取りまとめ、広島観光コンベンションビューローが中心となり、他の機関と連携を図りながら誘致を進めている。広域的な取組をしているコンベンションビューローと連携を図ることで、学会やパーティー等の誘致を実現することができた。



料理のコースは複数用意



「おりづる広場」での
歓談の様子



展望台での
歓談の様子



会場内では神楽など
様々な余興を行う
ことができる

成功要因

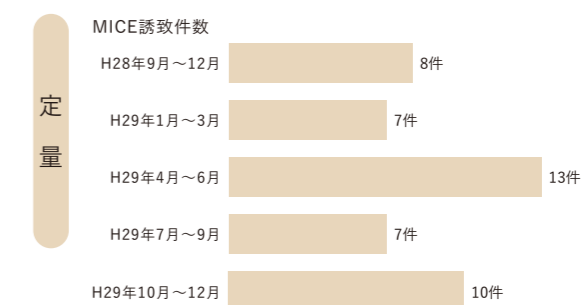
広島で行うユニークベニューには選択肢が少なく、また、開催可能な日程が限られていたり、全天候に対応できないなどの課題があった。おりづるタワーでは、ほとんどの日程で開催が可能で、全天候に対応できるため、広島で開催するユニークベニューの幅を広げることができた。また、立地が良いことや、クライアントの要望に対して柔軟に対応してきたこと、地域の特性を前面に押し出した独自性のある会場として整備を進めてきたことも、成功要因として挙げられる。

失敗談とその対応

ケータリングメニューについて、カフェの通常メニューだけでは需要に応えられず、ホテルなどの他会場と比べるとメニューやオペレーションにおいて差が出てしまっていたことから、調理器具や什器、備品、人員体制、メニューの継続した見直しを行った。また、もともとパーティー仕様の会場ではないため、音響や照明、テーブルなどの什器設備類が十分ではなかったが、パーティーを繰り返す中で、必要な什器設備を見直し、随時拡充してきた。

取組の成果

平成29年3・4月には、営業初年度ながら大型の医療学会系のユニークベニューを2本誘致した。そのうち平成29年3月に実施した第89回日本胃癌学会総会の懇親会では、胃癌学会にちなんでペリウィングルブルーにライトアップされた広島城を、おりづるタワーのパーティー会場からご覧いただいた。その他、グランドオープンから1年間で30件以上のユニークベニューを誘致している。



※出典：おりづるタワー実績

外国人観光客への対応

おりづるタワーのフロアガイドは17ヶ国語、館内の案内表示は4ヶ国語、ホームページは15ヶ国語、iPadは8ヶ国語を表記。物産館やカフェにおけるプライスカード、メニュー表は英語を併記、英語対応のツーリストインフォメーションセンターを併設するなど、多言語対応をしている。また、Hiroshima Free Wi-Fi、大手8社によるクレジット対応、ウイチャットペイやアリペイの対応、Japan Welcome SIM による引渡対応などを行っている。

今後の展望

引き続きハードとソフトの見直しを行い、地域特色を積極的に取り入れるとともに、様々なケースに対応できるよう、オプションプランなども増やしていく。詳細をまとめた MICE パンフレットが完成。MICE 誘致に、より取り組んでいく。

域内交通との連携

実施主体

京浜急行電鉄(株)・
みうらレンタサイクル運営協議会

京浜急行電鉄(株)
東京都港区高輪二丁目二十
TEL : 03-5789-8686 (京急案内センター)
URL : <http://www.keikyu.co.jp/>



神奈川県三浦市



賑わいを見せるまぐろ店舗

「みさきまぐろきっぷ」

「地方創生回廊」の完備

取組の概要

三浦市は人口減少数が全国トップになった年もあり、人口減少問題に直面している。京急沿線の地盤沈下が進めば、沿線価値の低下に直結しかねない危機感も抱えている。そのような中、都心から約1時間という便の良さと、海・山の自然が多く、まぐろや野菜など食材も豊富である三浦半島を知ってもらうため、まずは全国ブランドである「三崎のま

ぐろ」を前面に押し出したおトクなきっぷ「みさきまぐろきっぷ」を造成。「鉄道&バス乗車券」「まぐろまんぷく券」「三浦・三崎おもひで券」の3つがセットになった魅力満点のきっぷを発売することで、三浦半島に訪れる交流人口の促進を図り、将来の定住人口増加を狙った。

課題とマネジメント体制

国内有数のまぐろ水揚げ基地であり、海水浴場としても賑わいをみせていた三浦市の人口は平成6年をピークに減少を続けているほか、観光客数もピークの年間700万人から、平成20年には540万人まで落ち込みを見せていた。地盤沈下が進む三浦市を活性化しようと、京急電鉄と三浦市、アルコール離れを食い止めた麒麟ビールとで、期間

限定で「三崎のマグロを応援し隊」キャンペーンを実施。好評だったため、「交通・食事・レジャー」がセットになった「みさきまぐろきっぷ」として通年発売することになった。また、交通渋滞緩和の取組として、官民共同の協議会「みうらレンタサイクル運営協議会」を設立し、地域の回遊性向上を図っている。

ポイント

- 沿線の三浦半島の「食・見所・人」を熟知する鉄道会社ならではの「交通・食事・レジャー」の3つがセットになったおトクなきっぷを発売
混雑状況の「見える化」による滞在時間の延長・観光客消費額増の実現
- レンタサイクルやオープントップバス導入による地域回遊性の向上



赤い電車でおなじみ
京急電鉄



みさきまぐろきっぷ
告知ビジュアル



混雑状況システム
画面



みうらレンタサイクル

成功要因

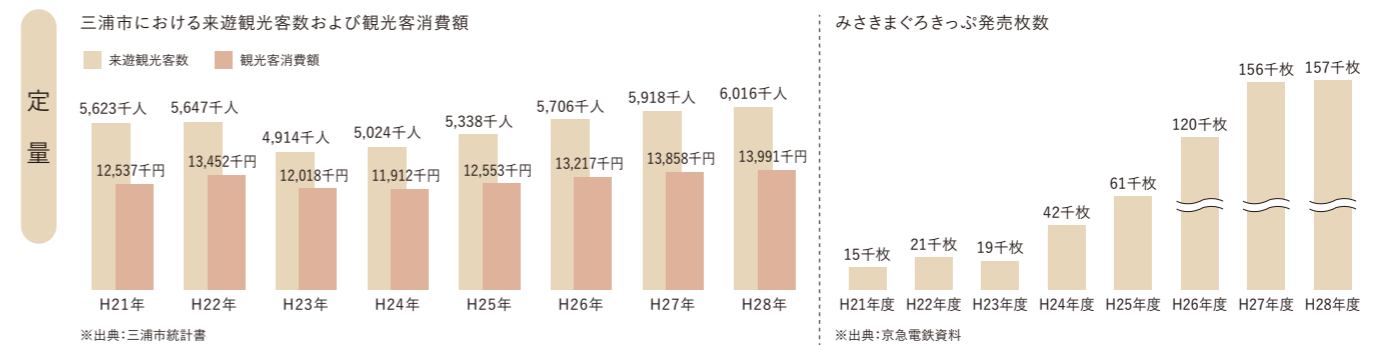
当初は飲食店(12店)とレジャー施設(3施設)のみであったが、加盟店の賑わいを目の当たりにした店舗から加盟希望があり、現在、飲食店(32店舗)とレジャー・おみやげ施設(18施設)まで拡大を続けている。「みさきまぐろきっぷ」の展開により、観光客は1日のプランを深く考えず、「おトクに・気軽に・美味しいもの」をすぐに体験できることから、首都圏および全国各地からの利用が絶えない。各加盟店舗も全国各地から足を運んでもらえることが実感でき、さらなるサービス向上に繋がっている。

失敗談とその対応

利用客の増加により、GW等には3時間待ちという飲食店も続出したため、各店舗の混雑状況を把握できるシステムを開発。加盟店舗にスマートフォンを配布し、30分おきに混雑状況を入力してもらい、ホームページで混雑状況を見えるようにした。その結果、利用客は空いている店舗を選ぶようになり、時間にも余裕ができて多くのスポットに立ち寄ってもらえるようになった。また、週末を中心に慢性的な道路渋滞も発生したため、「三浦・三崎おもひで券」でみうらレンタサイクルや京急オープントップバスの利用ができるようサービス向上を図った。

取組の成果

「みさきまぐろきっぷ」は現在、8年前の発売時の10倍以上の発売枚数を誇り、「おトクに・気軽に・美味しいもの」を思い立った時にすぐに行けるということから、メディアでも毎年多く取り上げられている。平成29年も全国放送の3タイトル(ヒルナンデス!・ジョブチューン・おじゃMAP!!)に取り上げられ、全国各地に三浦市の魅力を発信。これを機に、きっぷ加盟店舗も自分たちの住む三浦市の良さをより多くの人に知ってもらおうと機運が高まってきており、さらなるサービス向上を図ることができている。



外国人観光客への対応

外国人観光客にはまだまだ三浦半島の魅力(都心からの距離・豊かな自然・豊富な食材)が知られていないため、「みさきまぐろきっぷ」の多言語版のリーフレットを制作し、都心のホテルなどに設置。また、日本に滞在中、1日時間が空いたという外国人観光客の受入も積極的にやっている。

今後の展望

「みさきまぐろきっぷ」は多くのお客様に満足してもらえるきっぷとして、引き続き質の向上を図っていく。今後は、三浦市同様、三浦半島に位置する横須賀市・逗子市・葉山町と連携し、「みさきまぐろきっぷ」の弟分である「よこすか満喫きっぷ」「葉山女子旅きっぷ」を「みさきまぐろきっぷ」に並ぶきっぷに育てていくことで、三浦半島全域の活性化に寄与していきたい。

域内交通との連携

実施主体

四国旅客鉄道㈱、土佐くろしお鉄道㈱、阿佐海岸鉄道㈱、高松琴平電気鉄道㈱、伊予鉄道㈱、とさでん交通㈱、小豆島フェリー㈱、小豆島オーリーブス㈱

四国旅客鉄道㈱
営業部誘客戦略室（インバウンド）
香川県高松市浜ノ町八・三十三
TEL：087-825-1635
URL：http://shikoku-railwaytrip.com/

四国全域



伊予灘ものがたり

ポイント

- 四国内全ての鉄道及び小豆島エリアの路線バスとフェリーが乗り放題になるきっぷ「ALL SHIKOKU Rail Pass」を造成販売
- 官民連携による国外向けプロモーションの実施
- 他交通モードとも連携し、さらなる利便性の向上を図る

「インバウンド向けフリーきっぷで四国を周遊」～公共交通が連携した周遊きっぷの展開～

「地方創生回廊」の完備

取組の概要

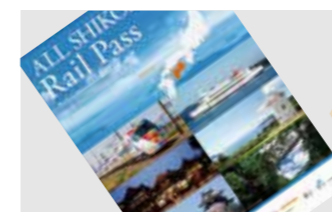
四国は、瀬戸内海の島々や四万十川の清流等の豊かな自然、サイクリングやラフティング等のアウトドア体験、遍路文化等、他にはない魅力があり、官民連携で訪日外国人旅行者の誘客に取り組んできた。訪日外国人の四国内旅行の利便性向上を図り、周遊滞在を促進すべく平成24年度に、四国内の鉄道会社6社が連携し、鉄道全線が乗り放題のき

っぷ「ALL SHIKOKU Rail Pass」を造成し販売を開始した。平成30年3月には小豆島エリアの路線バスとフェリーの追加を行い、利便性を向上させた。このフリーきっぷは海外での販売に加え、一部海外直行便での機内販売を開始する等、販売チャネルの充実を行い、当初の目標を大幅に上回るペースで販売枚数を伸ばしている。

課題とマネジメント体制

四国には大都市がなく、訪日外国人旅行者は全国と比較して少ない。しかし近年はインバウンドのFIT化やリピーターの増加、さらには東アジア圏への直行便の就航により訪日外国人旅行者が増加してきた。いかに四国各地へ足を運んでもらうかが課題であったため、官民でつくる四国ツーリズム創造機構及び四国内の鉄道会社6社が連携して、四国内

鉄道が乗り放題となるきっぷ「ALL SHIKOKU Rail Pass」の造成を企画し、平成24年から販売を開始した。きっぷは海外販売のほか、JR四国の主要駅、旅行センターで販売しており、JR四国が精算業務を行い、各事業者に配分するスキームを構築している。



ALL SHIKOKU Rail Pass
パンフレット(表紙)



ALL SHIKOKU Rail Pass
パンフレット(地図)



四国まんなか
千年ものがたり



予土線鉄道
ホビートレイン

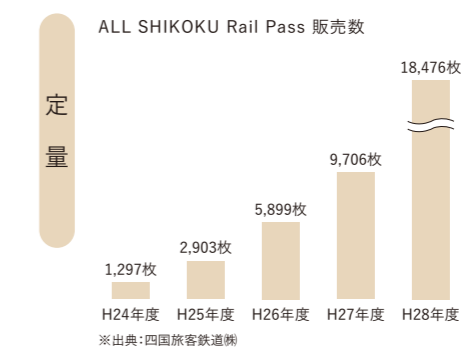
成功要因

四国は新幹線が通っていない等、他地域と比べ公共交通ネットワークが弱いというハンディがある。このため四国内鉄道会社6社が連携することにより、共通フリーきっぷを造成。四国内鉄道全線が1枚のきっぷで乗り放題という分かりやすさを訴求したことで、四国を訪問した旅行者によるFacebookやブログ

を通して「四国旅行=ALL SHIKOKU Rail Pass」が、FIT層を中心に広がりつつある。また、売り上げが増加した理由の1つとして海外直行便の就航が大きく、就航している4ヶ国地域で販売数の95%以上を占めている。

取組の成果

直行便の就航等により増加する四国への訪日外国人旅行者が、四国各地を訪問する際に共通フリーきっぷを多く利用していることから、人口減少で国内利用者が先細りしている四国内交通事業者にとっては、今後の成長分野として期待されている。



活用した支援策や資金調達方法

- 訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策補助金（交通サービスインバウンド対応支援事業）

外国人観光客への対応

JR四国ホームページ内に「ALL SHIKOKU Rail Pass」の専用ページを開設。また、「ALL SHIKOKU Rail Pass」の多言語リーフレットも製作・配布している。どちらも英語、簡体、繁体、韓国の多言語対応となっている。

今後の展望

観光地が点在しているため、引き続き複数の交通モードを連携させることで訪日外国人旅行者が広域を周遊できるよう、利便性向上を図ることが重要である。販売箇所拡大についても検討していく。